

社会・環境への責任 2012

トップメッセージ	1
企業方針	2
コーポレート・ガバナンス	4
コンプライアンス	6
特集：医療を通じて社会に貢献する	
患者に負担の少ない脳動脈瘤のカテーテル治療を目指して	7
最先端の心臓カテーテル治療を目指して	8
すぐに歩ける手首からのカテーテル治療	9
医療安全と育成に貢献 テルモメディカルプラネックス	10
がん患者を支える輸血医療	11
貴重なワクチンの効果を高める	12
転ぶかもしれない・・・高齢者が不安なく歩けるように	13
医療を止めない～東日本大震災	14
社会との関わり	
ステークホルダーとともに	15
お客様とともに	16
株主・投資家とともに	21
お取引先とともに	23
社員とともに	25
社会貢献活動	33

---

 環境との関わり
 

---

特集：生物多様性保全の取り組み .....	40
環境にやさしい企業を目指して .....	44
環境に配慮した商品 .....	47
地球温暖化防止 .....	51
資源の有効活用 .....	54
化学物質の適正管理 .....	59
グリーン調達・グリーン購入の推進 .....	62
環境監査の実施 .....	65
事業活動・物質フロー .....	67
サイトデータ .....	68
取り組みの歴史 .....	69

---

 コーポレートデータ
 

---

社会・環境活動の目標と実績 .....	71
5年間財務サマリー（連結） .....	74
事業別概況（2011年度） .....	77
地域別営業概況（2011年度） .....	79
連結貸借対照表 .....	81
連結損益計算書 .....	83

報告方針 .....	84
------------	----

---

## トップメッセージ

### 世界の医療に貢献し続けるために

テルモは、「近代医学の父」として知られる北里柴三郎博士をはじめとする医学者によって、1921年に設立されました。「優良な体温計をつくり、国民の健康を守る」という北里博士たちの医療への志を、私たちは大切に守り、引き継いでいます。企業理念、「医療を通じて社会に貢献する」のもと、優れた商品を高い品質で安定的に供給し、医療を取り巻くさまざまな課題に、積極的に対応していきます。

#### 新たな価値を追求し続ける

医療を取り巻く環境は大きく変化しています。先進国においては、高齢化、経済不況といった社会環境の変化により、医療費抑制やQOL(生活の質)向上が大きな課題となり、新興国では経済発展が進み、医療へのニーズが一層高まっています。こうした社会のニーズに対し、テルモならではの技術で、新たな価値を追求します。例えば、治療効果を高めるだけでなく、患者さんの身体への負担を少なくしたり、入院期間を短縮するなど、医療における経済性を高めていきます。また、医療機器は、正しく使う医療技術を伴って初めて効果を得られるものです。医療者が安全で高度な技術を習得するための技術トレーニングなど、ソフト面のサポートを行ってまいります。そして、高齢化が進む日本を起源とする医療機器メーカーとして、世界の高齢化という課題に積極的に取り組んでまいります。

#### 持続的かつ収益性のある成長に向け、土台の強化に取り組む

医療を通じて社会に貢献し続けるために、「持続的かつ収益性のある成長」を目指した経営をグローバルで行ってまいります。中長期的なグローバル需要の増大への対応、また価格競争力や円高への耐性を強化するため、海外の生産拠点を拡張します。ベトナム国内に2拠点目となる新工場を開設するほか、ベトナム、フィリピンの既存工場の規模を拡張するなど、グローバル生産体制の拡充を進めていきます。また近年、米国FDA(食品医薬品局)をはじめ、各国の規制は一層厳しさを増し、これまで以上の品質管理体制が求められています。体制強化への投資を緩めることなく行い、持続的成長に向けた揺らぐことのない土台を作るとともに、安全と安心の提供に努めてまいります。

#### コーポレート・ガバナンス体制を強化

社会から信頼される企業であり続けるため、コーポレート・ガバナンス方針を策定しました。取締役総数のうち2割以上を社外取締役とするほか、監査役総数のうち半数以上を社外監査役とするなど、監督機能の強化と意思決定の質の向上を図っています。また、委員長および委員の半数を社外取締役で構成するコーポレート・ガバナンス委員会を設置し、取締役候補の選任や報酬体系を審議するなど、経営の健全性と透明性を向上させています。こうしたガバナンスの実効を上げるためには、体制強化だけでなく、「自由闊達な、明るい、働きがいのある」企業風土が重要と考え、その醸成に努めてまいります。



#### 株主還元について

業績連動や今後の投資計画なども考慮しながら、配当を安定的に増やし、中長期的に配当性向30%を目標としてまいります。

持続的な成長の実現に向け、全力で経営にあたっていくことが、私の使命であり、世界の医療に貢献することだと確信しています。皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

新宅祐太郎

# 企業方針

## 企業理念

### 医療を通じて社会に貢献する

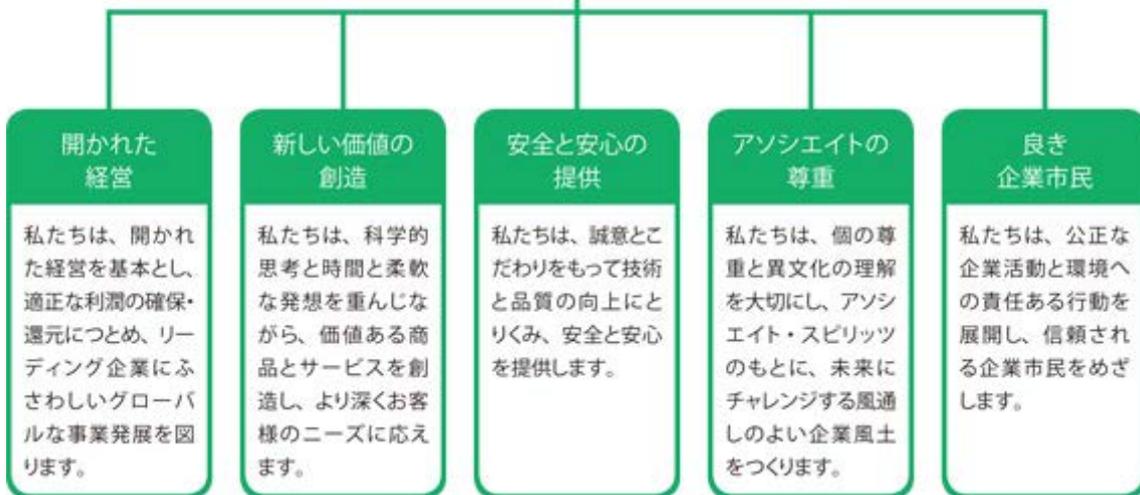
私たちは、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供し、医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します

## ビジョン

テルモはユニークな輝く技術で、人にやさしい医療を実現します

## 5つのステートメント

(企業活動規範)



## アソシエイト・スピリッツ

「人は資産」と考えるテルモでは、社員を「アソシエイト」と呼んでいます。1996年にアソシエイト自らが考え出した4つのキーワード「アソシエイト・スピリッツ」は、一人ひとりが「主体的にチャレンジし、お互いを尊重しあうことでチーム力を発揮し、お客様により高い品質とサービスを提供する」ことを宣言しています。



## テルモのこころ

創業以来培ってきた独自の考え方や仕事の仕方はテルモの個性であり、テルモだけが作り出せる価値やブランドの源泉です。その一方で、常に変化する社会にすばやく対応し、新しい価値を創造・提供できなければ、企業は存在価値を失い、社会的使命を果たせません。

これからもテルモがテルモであり続けるためには、柔軟に変えていくべきものも必要ですが、未来に向かって決して変えてはいけない基本的な考え方と志があります。それが「テルモのこころ」です。



テルモのこころ

# コーポレート・ガバナンス

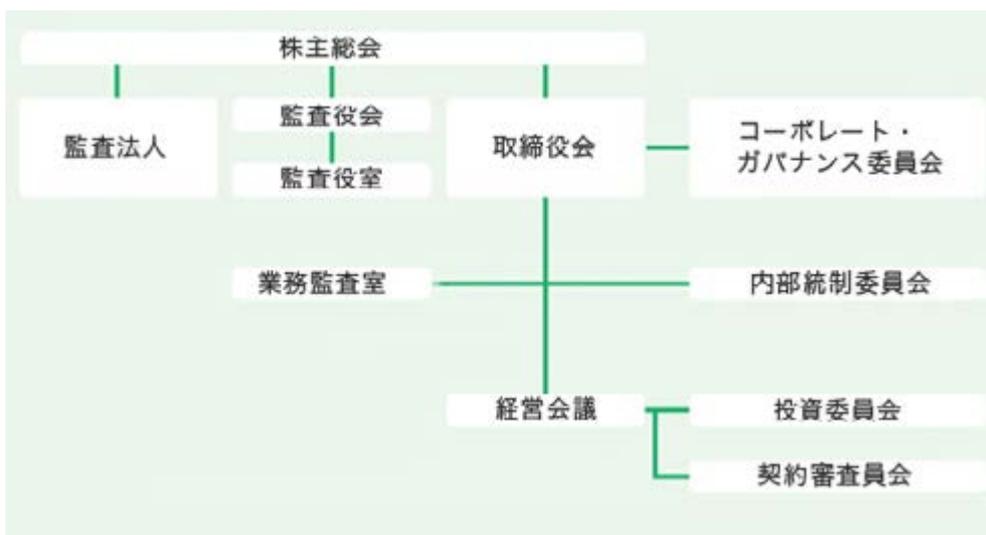
テルモは、社会から信頼される企業であり続けるため、取締役会において以下の「コーポレート・ガバナンス方針」を定めています。

## 1. 基本的な考え方

- テルモは『医療を通じて社会に貢献する』を企業理念とする。その理念の下、世界中の顧客、株主、社員、取引先、社会などのステークホルダーの期待に応え、長期に亘る持続的成長および企業価値の最大化を達成するために、価値ある商品とサービスを提供する。
- 企業理念をより具体化するため、「開かれた経営」、「新しい価値の創造」、「安全と安心の提供」、「アソシエイトの尊重」および「良き企業市民」を5つのステートメントとして設定し、全アソシエイトの活動および判断の基準とする。
- 企業理念および5つのステートメントを基本に、コーポレート・ガバナンスの公正かつ効果的な仕組み作りを推進するとともに、アカウンタビリティ（説明責任）を充実させることにより社内外からの理解と信頼が継続して得られるよう努める。
- コーポレート・ガバナンス体制が実効を上げるには、自由闊達な、明るい、働きがいのある企業風土が不可欠であり、その風土の醸成に努める。

## 2. コーポレート・ガバナンス体制

テルモは、取締役会による業務執行の監督機能と監査役会による監査機能を有する監査役会設置会社である。加えて、経営の透明性と客観性を高めるため、コーポレート・ガバナンス委員会および内部統制委員会を任意の機関として設置する。



### (取締役と取締役会)

#### (1)役割

- 取締役会は、法令、定款および取締役会規則で定められた事項を決定する。
- 取締役会は、取締役および執行役員の職務の執行を監督する。
- 取締役会は、企業価値の最大化に向け経営に関する最適な意思決定に努める。
- 取締役会は、コーポレート・ガバナンスの機能を果たす。

#### (2)構成

- 取締役の員数は15名以内とし、うち、社外取締役は2割以上を目処とする。
- 社外取締役は、東京証券取引所の定める独立役員の要件を満たす者とする。
- 取締役会の議長は、代表取締役会長とする。

#### (3)任期

- 取締役の任期は1年とする。なお、再任を妨げないものとする。

### (監査役と監査役会)

#### (1)役割

- 監査役は、取締役会その他の重要会議へ出席し、取締役の職務執行を監査し、かつ経営に関する的確な意見を陳述する。
- 監査役会は、次に掲げる職務を行う。
  - 監査報告の作成
  - 常勤の監査役の選任および解職
  - 監査の方針、会社の業務および財産の状況の調査方法、その他監査役の職務の執行に関する事項の決定

#### (2)構成

- 監査役の員数は5名以内とし、うち、社外監査役は半数以上とする。
- 社外監査役は、会社法に定める要件および東京証券取引所の独立役員の要件を満たす者とする。
- 監査役会の議長は、決議により監査役の中から選定する。

#### (3)任期

- 監査役の任期は4年とする。なお、再任を妨げないものとする。

上記の法定機関のほか、コーポレート・ガバナンスの一層の充実のため、以下の機関を設置する。

### (コーポレート・ガバナンス委員会)

#### (1)役割

- 取締役会の公正性および経営の透明性を高めるため、次の事項に関し、審議および助言を行う。
  - コーポレート・ガバナンス体制の充実
  - 取締役・監査役および執行役員の各候補者の選任
  - 取締役・監査役および執行役員の報酬体系の設定

#### (2)構成

社外取締役、代表取締役および委員長の指名する者により最大6名で構成する。  
うち、東京証券取引所の独立役員の要件を満たす社外取締役を半数以上とする。

#### (3)委員長

コーポレート・ガバナンス委員会の委員長は、委員の互選により社外取締役より選定する。

### (内部統制委員会)

#### (1)役割

経営のリスクマネジメントおよびコンプライアンスの推進、  
ならびに企業情報の法定開示および適時開示に関する管理を行う。

#### (2)構成

委員長が任命する取締役、関係部門長に加え、専門部会長、業務監査室長および内部統制推進室長により構成する。

#### (3)委員長

内部統制委員会の委員長は代表取締役社長とする。

以上  
2011年11月17日

# コンプライアンス

## コンプライアンス

### ■ コンプライアンス体制

テルモの企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」は、企業としてだけでなく、全アソシエイトのめざすところです。医療に関わる企業としての高い倫理観を持って事業を行っていくために、これからも法令遵守と企業倫理を軸とした公正・公平な事業活動を進めていきます。

当社は、これらの活動を推進するために、取締役会において「内部統制システムの基本方針」を決議し、その基本方針に基づき、「内部統制委員会」を設置して、コンプライアンスの観点からグループ全体の重要な課題を審議・実行しています。また、「内部統制委員会」の指示のもと、グループ各社は、コンプライアンス活動を推進する役割で「コンプライアンス・オフィサー」を設置し、各社での取り組みを実践しています。その活動を通じて、重要な情報を「内部統制委員会」に報告・審議することでグループ全体のコンプライアンス活動を推進しています。

### ■ 「テルモグループ行動規準」の遵守

テルモは企業に求められる社会的要請により深く応えるため、海外を含むテルモグループの全社を対象に日常の行動規範を定めた「テルモグループ行動規準」を2008年4月に制定し、テルモグループ全社を挙げて、法令遵守はもとより社会倫理に従って行動するように取り組んでいます。

「テルモグループ行動規準」では、「企業理念」と「テルモのこころ」を礎に「アソシエイトひとりひとは公正な事業活動と環境への責任ある行動を展開し、信頼される企業市民の模範とならなければなりません」と宣言し、各職場に応じた研修を実施するなど、企業倫理の重要性を認識できる環境を整備しています。また、人権の尊重や差別の排除についても明文化し、グローバル企業として徹底した取り組みをしています。

### ■ 「企業倫理ホットライン」

当社では、内部通報制度として「企業倫理ホットライン」を2003年に開設しました。

「企業倫理ホットライン」には、「テルモグループ行動規準」に照らして気になる内容・状況があった場合、正社員・派遣社員の区別なく、誰でも連絡・相談することができます。匿名でも電話、メール、封書などが利用できる体制を整えるとともに、顧問弁護士事務所に社外窓口を設置し、プライバシー保護や不利益の禁止を徹底した上で、利用の促進を図り、改善すべき問題に取り組んでいます。

## 特集：医療を通じて社会に貢献する



### 脳動脈瘤治療用コイル

脳動脈瘤が破裂するのを防ぐために、カテーテルを用いて塞栓物質（極めて細いプラチナ製のコイル）を脳動脈瘤の中に詰め、血液が流れ込むのを遮断する



脳動脈瘤のX線画像

## 患者に負担の少ない 脳動脈瘤<sup>りゅう</sup>のカテーテル治療を目指して

脳の血管にできた「こぶ」、それが脳動脈瘤です。破裂すると生命に関わるクモ膜下出血や脳内出血を引き起こす可能性があります。脳動脈瘤を治療する方法には、こぶの根元をクリップで挟んで血液が流れ込むことを防ぐ外科手術と、カテーテルでコイルをこぶに詰める脳血管内治療があります。

欧米では、カテーテルを使った治療がすでに5割以上を占めています。日本では現在3割程度となっていますが、身体への負担が少なく入院期間が短いカテーテル治療は、今後さらに広がっていくと考えられています。

### インタビュー

#### テルモの革新的な技術が、多くの患者を救っています

脳血管疾患へのカテーテル治療は、この10年の医療機器の進歩に伴い、驚くべき速さで普及しています。新しい技術により、身体への負担が少ない治療が可能になりました。

テルモグループのマイクロベンション社は、数々の革新的な脳血管カテーテル技術を開発し、患者を救ってくれています。今後も脳梗塞治療のさらなる発展と進化に大きな役割を果たしていくと信じています。



**H. Saruhan Çekirge, M.D.**  
Hacettepe University Hospitals  
Ankara, Turkey

## 特集：医療を通じて社会に貢献する



### 最先端の 心臓カテーテル治療を目指して

OFDI<sup>※</sup>血管内画像診断システムは、血管内に挿入したカテーテル先端部から発する光の反射を解析することにより、血管の断面を測定、診断します。

このシステムは、解像度が高く、詳しく血管内を表示することができるため従来は診断が難しかった血管の内側の状態や、ステント(血管が狭くなるのを防ぐ金属製の網状チューブ)の留置状態などが確認でき、治療の安全性と効果を高めることに貢献します。

※ OFDI: Optical Frequency Domain Imaging (光干渉断層診断)



#### 3D画像イメージ

血管の内側の状態やステントの留置状態などを確認できる

#### インタビュー

#### これまで得られなかった 血管内の情報を得ることができる

テルモのOFDIに関する技術の高さは素晴らしい。これまでの画像診断技術では得ることのできなかった血管内の情報を得ることができ、診断から治療までサポートしてくれます。

より安全で効果的な心臓カテーテル治療に貢献してくれると期待しています。



**Bernard Chevalier, M.D.**

Clinique Jacques Cartier  
France

## 特集：医療を通じて社会に貢献する



### すぐに歩ける手首からのカテーテル治療

心臓カテーテル治療の中でも、手首から治療する方法は、世界的に普及が進んでいます。この方法は、治療後直ぐに歩くことも可能で、患者さんの身体への負担を少なくすることができます。入院期間も短いことから、経済的負担を削減する効果も期待されています。

一方、手首から心臓につながる血管は細く蛇行しているため、細く、しなやかで、血管を傷つけないカテーテル製品が求められます。また、治療では医師の高い技術が求められ、トレーニングを行う環境の整備が重要となります。テルモは、製品とトレーニングの両面から、患者さんにやさしい治療の普及に貢献していきます。



手首の血管につくられたカテーテル挿入口

#### インタビュー

#### 手首からの治療を始めて20年 テルモは医師の良きパートナー

私が世界で初めて手首からのカテーテル治療を行ってから、20年がたちました。足からカテーテルを挿入する治療に比べて傷口が小さく、出血が少ないなど患者さんの身体への負担を少なくすることができます。この治療をさらに普及させていくために、製品の開発と医師の技術を高めるトレーニングの両面から支えてくれるテルモは、私たちの良きパートナーです。



Ferdinand Kiemeneij, M.D., PhD.  
Onze Lieve Vrouwe Gasthuis  
Netherlands

## 特集：医療を通じて社会に貢献する



### 医療安全と育成に貢献 テルモメディカルプラネックス

医療現場を再現した設備やシミュレーション機器で、医療者のトレーニングを支えるテルモメディカルプラネックス。ここでは、採血や注射など基礎技術の研修から、専門医を対象とした高度な医療技術の習得、さらには医師や看護師などのチーム連携の強化など、医療者のニーズに応える多彩なトレーニングを行うことができます。

テルモは医療の質を高めるサポートを行いながら、お客様とのパートナーシップを深めていきます。



**総合トレーニング施設**  
「テルモメディカルプラネックス®」  
年間1万人を越す医療者が訪れる

#### インタビュー

#### 現場さながらの臨場感でテクニックを習得できる

治療や処置を何度も繰り返して練習し、感覚がイメージできるようになると、私たちは自信を持って患者さんに接することができます。臨場感のある環境でテクニックを習得できるプラネックスは、医療安全を追求する私たちにとって価値ある施設です。テルモには、今後も医療の安全性を高めるための商品開発やサポートを期待しています。



東京医科大学病院 副院長・看護部長  
中野 八重美 様

## 特集：医療を通じて社会に貢献する



### がん患者を支える輸血医療

抗がん剤による化学療法や放射線療法では、その副作用で血液の成分である赤血球や血小板などが減ることがあります。特に、血小板には止血という重要な役割があります。減少すると出血しやすく、止まりにくくなるなどのリスクが高まるため、輸血によって血小板を補う必要があります。テルモは、献血で使用する成分採血システムにおいて、血小板を効率よく採取し、献血者の負担も少なくすることで、輸血医療に貢献します。



**成分採血システム**

短時間で高濃度の血小板が採取できる

#### マーケティング担当者の声

##### 世界中で必要とされる輸血医療に貢献する

手術や治療などで、輸血を必要とする患者さんが多くいます。中でもがん患者は、抗がん剤による化学療法の副作用で血小板が減ってしまうため、輸血によって補う必要があります。テルモは、献血者の方から貴重な血小板を採取するために、より高性能な成分採血システムを血液センターへ提供し、血液製剤の製造に貢献します。輸血医療を必要とする世界中の患者さんの治療を支えています。



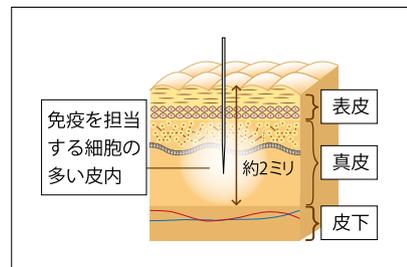
## 特集：医療を通じて社会に貢献する



### 貴重なワクチンの効果を高める

感染症予防やガンなどの治療において、免疫力を高めるためにワクチンの開発が進んでいます。貴重なワクチンの一人当たりの量を減らすことができれば、多くの方に投与することが可能になります。

テルモでは免疫を担当する細胞が多い、皮内(皮膚の浅い所)に投与することで、従来よりもワクチンの効果を高め、量も少なくすることができるような投与システムを開発しています。さらにこのシステムにより痛みや針に対する恐怖などの負担も少なくすることが期待できます。現在、製薬企業の第一三共株式会社と連携して実用化の検討を進めています。

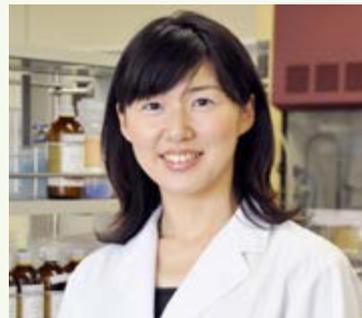


皮膚の断面図

#### 開発者の声

##### 皮内注射の開発で医療に貢献する

皮内注射によりワクチンの効果を高めることができるという着眼から皮内注射システムの開発を始めました。薄い皮膚への確実な注射や、痛くない・怖くないといった人にやさしい機器をつくることだけでなく、ワクチン効果の増強を含め製薬企業と一緒にワクチン開発全体を進めるのも私たちの役割です。



## 特集：医療を通じて社会に貢献する



転ぶかもしれない…  
高齢者が不安なく歩けるように

### 転ぶかもしれない… 高齢者が不安なく歩けるように

年を取ると筋力が衰えることにより、つまずいたり、転倒しやすくなり、その不安から外出を控える方もいます。

また、転倒による骨折は、寝たきりとなる原因の一つとも言われています。転倒予防くつ下は、つま先が上がり、つまずきにくくなります。

テルモは、けがや病気の予防を通して、高齢者の皆様のいきいきと健康的な生活を応援していきます。



#### 転倒予防くつ下

伸縮性を利用した編み方により、自然につま先が上がる

#### インタビュー

##### 転倒を少なくすることは骨折予防にもつながる

年を取るとつま先が下がりやすく、ふとした段差でもつまずき、転びやすくなります。歩くことはとても大切で、骨粗しょう症の予防にもなり、さらに骨折を起こしにくくします。つま先を上げることで、転ばない歩き方ができ、骨折の予防にもつながると思います。今までは靴だけが合えば歩きやすいと思っていましたが、靴下は非常に大切な要素です。



聖路加国際病院 理事長・名誉院長  
日野原 重明 先生

## 特集：医療を通じて社会に貢献する



愛鷹工場の自家発電設備

## 医療を止めない〜東日本大震災

東日本大震災を受け、テルモの使命を見つめ直しました。世界の医療現場に提供する商品を安定供給し続けるために、私たちの使命は、「医療を止めない」ことです。新たな決意のもと、さまざまな対策を講じました。国内の工場では、生産工程を止めないためにガスエンジンによる自家発電装置を新たに設置し電力供給を補います。また、物流を維持するために、受注センターや倉庫、データセンターを関東と関西に分散させました。その他にも、生産拠点を国内と海外へ分散するなど、安定供給のための対応を図っています。



震災後も非常用の自家発電装置で生産を継続

### 保全担当者の声

#### 安定供給を維持するために

私たちの所属する保全の使命は、生産に必要なエネルギーの安定供給や作業環境を守ることです。私たちの工場で生産しているカテーテルや人工肺製品は世界の医療現場で使用されているため、生産を止めることはできません。昨年の震災では、自分たちの仕事が果たす役割・重要性を再認識しました。

今後、万一の災害にも負けない強い意志を持ち、チーム一丸となって、「医療を通じて社会に貢献する」ための保全活動を継続していきます。



## ステークホルダーとともに

テルモの事業活動は、様々な立場の方々に支えられて成り立っています。商品を使われるお客様をはじめ、テルモを取り巻くすべての方々がステークホルダーです。テルモはみなさまと良好なコミュニケーションを図りながら、今後とともに成長していきます。

### テルモのステークホルダー

- 株主

開かれた経営と公正な企業活動のもと、企業価値の向上を継続します。

- 取引先

重要なパートナーとして、公正・自由な取引と法令遵守のもとに商品を提供します。



- お客様

医療従事者、患者さんや一般消費者など、お客様との密接なコミュニケーションのもと、安全で高品質な商品やサービスを提供します。

- 社員(アソシエイト)

能力を発揮できる職場環境をつくり、グローバルに活躍できる人材を育成します。

- 地域社会

生活や環境に配慮しながら、よりよい医療環境の普及に努めます。

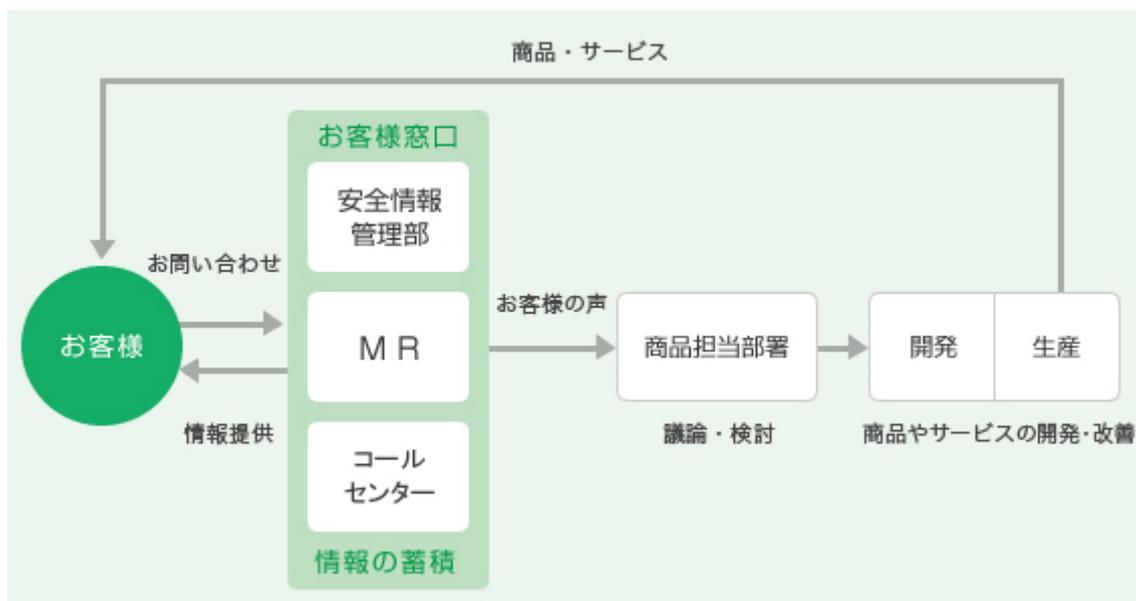
## お客様とともに

お客様とコミュニケーションを図りながら安全で質の高い商品やサービスの提供に取り組むことが、医療を支えるテルモの役割であり、責任であると考えています。

### お客様との関わりに対する考え方

テルモのお客様は、医療従事者や患者さん、健康や病気に関心のある一般消費者の方々などです。お客様のニーズを的確にとらえ、お客様にとって価値のある製品を開発することが、私たちの役割であると考えています。また、販売した商品をお客様に安心してお使いいただくための情報提供やサポートも重要な取り組みとして位置づけています。テルモは、こうした考えのもと、お客様とのダイレクトかつ密接なコミュニケーションを安全な医療の基礎として、製品開発とサービスの両面から人々の健康な暮らしに貢献できるよう、事業活動を遂行しています。

#### お客様とテルモの関わり チャート



## 適正使用に向けた情報提供

### 医療機器や医薬品の適正使用に向けて

テルモのMR<sup>\*</sup>は、医療機器や医薬品の適正使用や有効性、安全性を確保するため、医療機関に対して正確な情報収集と迅速な情報提供を行っています。また、医療者の技術習得に向けて、総合医療トレーニング施設「テルモメディカルプラネックス<sup>®</sup>」において、カテーテル治療や注射、採血など多岐にわたるトレーニングをサポートしています。

※ MR：Medical Representativeの略。医療機関向けの情報担当者。



「テルモメディカルプラネックス」でトレーニングをサポート

### プロモーションコードの遵守

テルモは、医療機器や医薬品の適正なプロモーションに向けて、業界の自主ルールである「プロモーションコード」の遵守に努め、また社会的責任を果たして倫理的な企業活動を実践すべく、自社で「テルモプロモーションコード基準」を策定しています。今後もその遵守に努めてまいります。

### 企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針

テルモの事業活動がライフサイエンスの発展に寄与していること、また高い倫理性を担保した上で企業活動が行われていることについて広く理解を得るため、自社で「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」を定めています。それにより、事業活動に伴う医療機関・医療関係者等への資金提供実績の情報を2013年度より公開します。

## お客様の声に耳を傾ける

### テルモ・コールセンター

テルモ・コールセンターは、一般のお客様、医療機関、代理店の皆様から、年間約30万件にのぼる主にお電話でのお問い合わせをいただいています。テルモの商品は医療機関で使われるもの、家庭で使われるものなど様々ですが、一つひとつのお問い合わせにすばやく的確に回答するため、分野ごとに専門のコミュニケーターが対応しています。お客様に満足いただけるようコミュニケーションの維持・向上に努めるとともに、在宅医療の患者さんなど緊急性が高い分野のお問い合わせに関しては、24時間対応しています。また、お寄せいただいたお客様の声を社内に反映していく仕組みも強化し、商品の改善や製品開発に役立てています。



専門知識を持つコミュニケーターが対応

## お客様の声を商品へ生かす

### 医療安全に関する情報を蓄積

お客様から寄せられる、商品の品質や安全性・適正使用に関する情報は社内の安全情報管理部に蓄積されています。重要な情報は添付文書に記載するほか、ウェブサイトや業界団体を通じた情報発信、MRが医療機関を訪問して情報を提供するケースなど、スピーディかつきめ細かなコミュニケーションが図られています。

また、蓄積された情報は製品の開発や改良・改善、医療安全に関する医療機関の研修サポート(T-PAS<sup>※</sup>)にも生かされています。

※ T-PAS：Terumo Proactive Action for Safetyの略。テルモ独自の予測に基づいた安全対策の研修会。

### 医療機関の研修をサポート

テルモでは、シリンジや輸液セットなどの医療機器による事故を防ぐため、添付文書に記載された注意事項のうち、重要度の高い事象を模擬的に体験して理解する「T-PAS」を各医療機関で行っています。医療従事者の皆様より、「事故につながる使用方法を模擬体験することで、改めてリスクの重大さに気づいた」「思い込みや先輩からの口頭伝承による使用方法だけに頼ってはいけないことに気づいた」などの評価をいただいています。毎年開催されている医療の質・安全学会学術集会では、これまでに全国の7つの病院からこの研修について報告がありました。



医療機器の正しい使用方法を学ぶ研修をサポート

### 使いやすい商品やサービスの提供

安全かつ簡単な操作で商品をご使用いただけるよう、テルモでは多くの商品で人間工学に基づいた開発を行っています。血糖測定システム「メディセーフフィット」は、患者さんの動作を分析し、加齢や合併症などで指先や目が不自由な患者さんに向けて、血液を吸引しやすいように機器の先端をカーブ形状にしました。また画面表示はユニバーサルデザインフォント<sup>※</sup>を用いて、見やすさを実現しました。

※ ユニバーサルデザインフォント：使いやすさ、見やすさなど細かい部分にも配慮や工夫をした書体



患者さんの使いやすさを追求した血糖測定システム「メディセーフフィット」

## 安全・安心な品質への取り組み

品質を守ることが医療に関わる企業の重大な責務であり、テルモの企業価値を根底で支えています。より安全に、安心してお客様にお使いいただくため、テルモでは商品の品質にサービスの品質を加えた総合品質の向上に、全アソシエイト(社員)が取り組んでいます。

### 国際規格に適合した品質保証体制

1995年、テルモは欧州の医療機器指令への対応を皮切りに、国際規格に適合した品質マネジメントシステムと既存の医薬品GMP<sup>※1</sup>をベースにした高度な品質保証体制の融合を進めました。そして現在、グローバルな要求に適合する品質マネジメントシステムの構築を推進しています。医療機器の品質保証のための国際規格であるISO13485<sup>※2</sup>の認証取得を、国内の5拠点(富士宮工場、愛鷹工場、甲府工場、研究開発センター、テルモ・クリニカルサプライ)と海外の生産16拠点で取得しています。また、薬事法、欧州医療機器指令、近年強化されている米国のFDA規制のほか、急速に進むグローバルハーモナイゼーションによる新興国での規制強化など、医療機器や医薬品に対する各国の規制動向や要求内容の把握を行っています。また、それらを取捨選択する形で品質マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。



工場での厳しい品質管理

※1 医薬品GMP：原料の受入から製造、出荷までのすべての過程で製品が安全につくられ、品質を保つために定められた規制システム。

※2 ISO13485：医療機器の品質保証のための国際標準規格。

### 安全・安心を追求する品質方針

品質マネジメントシステムの構築と実施、その有効性の維持のため、経営者が自ら品質方針を設定しています。各部門はこの方針に基づいて品質目標を設定し、トップの方針がアソシエイト一人ひとりの目標に落とし込まれていきます。品質方針の一番目に掲げている「お客様の視点」がテルモの品質保証のベースになっています。

#### 品質方針

私たちは、医療の現場に安全と安心をお届けするため、

- お客様にとって価値ある製品を追求します。
- 品質システムにおける自らの役割を理解し、実践します。
- 仕事の進め方を常に見直し、改善します。

テルモ株式会社

### ■ 高品質を守り抜く監査体制

品質を維持・向上させるため、品質マネジメントシステムが適切に遵守・運用されていることを客観的に評価する内部監査を実施しています。内部監査は、トレーニングを積み一定の基準に達したアソシエイトが行います。結果は経営者に報告され、改善指摘を受けて品質マネジメントシステムの継続的な改善につなげます。さらに、薬事法をはじめ欧米各国から全世界に拡大しつつある規制や、取引先企業からの個別要求事項に適合していることを証明するため、年に数回の外部監査を受けています。

### ■ 海外でも厳しい品質管理を実施

海外工場の役割が増す今、国内で培った品質向上のノウハウを海外アソシエイトに伝える一方、体系的な考え方や標準化といったシステム面の多くを彼らから学んでいます。海外アソシエイトとの相互交流を続ける中、国内で独自に発展した評価手法の「初期流動品質確認※」が、海外工場でも「Shoki-Ryudo」として導入されています。

※ 初期流動品質確認：新製品を量産移行する際に、品質の不具合の有無や製品仕様などを「お客様の視点」に立って再度確認する品質管理。



海外アソシエイトとの技術交流会

## 株主・投資家とともに

テルモは、企業価値の向上による安定的な株主還元と、適時適正な情報開示、株主や投資家の皆様とのコミュニケーションによる「開かれた経営」に努めています。

### 株主還元の基本方針

テルモは、高い利益性と持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図っています。これは、株主の皆様利益に適うものであり、投資価値の増大につながるものと考えています。株主の皆様への利益配分については、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目標としています。

### IR (情報開示)の基本方針

テルモは、広く社会から信頼されることを目指し、透明性・公平性・継続性を基本に、金融商品取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則に則った情報の開示を行うほか、テルモをご理解いただくために有効と思われる情報についても、タイムリーかつ積極的な情報開示に努めています。

### 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

#### 株主総会

株主総会では、業績報告はもちろん、テルモの商品や技術がどのように医療に貢献しているかについて分かりやすく解説しています。また、開会前には企業理念の実現に向けた取り組みをお客様とアソシエイト(社員)の声でお伝えする映像を上映しています。さらに製品の展示コーナーを設置し、医療機器を間近でご覧いただくことで、テルモへの理解を深めていただけるよう努めています。



株主総会

#### 決算説明会

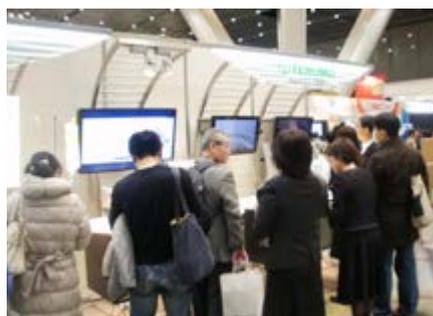
証券アナリストや機関投資家向けの決算説明会を、四半期ごとに開催しています。決算説明会には、代表取締役をはじめとした関係者が出席し、業績、増減要因、今後の経営戦略についてご説明しています。また、説明会で使用した資料やスピーチをウェブサイトに掲載し、投資家の皆様に公開しています。



決算説明会

## 個人投資家向け説明会・イベント

個人投資家の皆様との直接対話の場として、個人投資家向け会社説明会を全国各地で開催しています。また、東京証券取引所などが主催する個人投資家向けIRイベントへの出展も積極的に行っています。



IRフェスタ

## TERUMO LETTER (株主通信)

株主の皆様へ年2回、「TERUMO LETTER」をお送りし、テルモの業績や成長戦略、配当の情報などをご報告しています。また、個人投資家向け説明会やIRイベントの際にも「TERUMO LETTER」を配布し、個人投資家の皆様に少しでも理解を深めていただけるよう努めています。



株主の皆様へ年2回発行

## IRウェブサイト

テルモは、自社ウェブサイト「株主・投資家の皆様」で、テルモの紹介や各種開示資料など、株主・投資家の皆様に必要な情報を発信しています。また、テルモを知らない投資家の皆様にもテルモについて理解を深めていただけるよう、ウェブサイト「テルモのやさしい会社案内」で、テルモの強み、理念、今後の成長戦略などを分かりやすくご紹介しています。

## お取引先とともに

テルモは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、原材料の調達を推進し、患者さんや医療従事者に対して、安全かつ安心に商品をお使いいただけるよう、原材料の選定を行っています。

### 原材料調達に関するポリシー

テルモは人にやさしく環境にもやさしい企業を目指し、2009年10月、「Human×Eco®開発指針」を策定しました。これにより、

1. 次世代に害のない材料選定（環境負荷の低減）
2. 資源を無駄なく使用できる材料選定（省資源化による削減）

なども考慮し、新たなステージの調達を目指しています。

このような考えを基本にお取引先と公平かつ公正な関係を維持・継続し、また、各国の薬事規制・法令ルールにのっとった原材料の調達に、継続的に取り組んでいます。

### 原材料調達の取り組み

テルモの商品は160か国以上へ販売されており、生産は日本で5拠点、海外では19拠点で行われています。原材料調達に関する環境が激しく変化する中で、品質と安定供給の確保を第一に、医療現場へ高品質の商品を供給できるよう最適地購買に取り組んでいます。

2011年の東日本大震災発生時にはサプライチェーンの寸断にもかかわらず、医療に優先供給するというお取引先のご理解のもと、「医療を止めない」を合言葉に原材料を確保することができました。この経験を基にお取引先にご協力いただき、さらなる安定調達体制の確保に取り組んでいます。

## 購買に関するコンプライアンス教育

購買に関してお取引先との相互コミュニケーションを図れるよう、お取引先の選定から発注、請求支払いの基本ルールを中心にアソシエイト(社員)に説明し、下請法の理解と周知を図るべく研修を実施しています。内部統制の意識付けとともに下請法遵守の維持・向上に努めています。また、行政機関である公正取引委員会・中小企業庁主催の講習会への積極的に参加することで、下請法の啓発と推進を行っています。下請法強化月間には、下請法遵守状況のチェックとヒアリングを行い、親企業として遵守すべきポイントの徹底と再認識を図っています。



購買に関するコンプライアンスの社内研修

## お取引先へのアンケート

お取引先から信頼される資材部門とさらなる改善を図るため、毎年、お取引先へのアンケートを実施しています。アンケート項目は、テルモの資材取引上のビジネスマナーをはじめ、取引倫理、資材選定方法といった取引に関わる内容で、多岐にわたっています。2011年からは、「医療を止めない」安定調達を行うため、BCP(事業継続計画)に関するアンケートも追加しました。お取引先からいただいたご回答やご意見に基づき、テルモの資材部門の課題を分析した上で、工場資材部門へフィードバックし、課題を解消するとともに今後の資材調達のあり方を確認し、反映するツールとして役立てています。また必要に応じて、ご意見をいただいたお取引先と直接的な話し合いを行い、相互の信頼関係向上に努めています。

### 取引先アンケート回収率

2009年度	2010年度	2011年度
98%	94%	97%

## 資材の品質向上の推進

製品の品質をより高めるために、購入資材の品質管理の強化に取り組んでいます。また現在、医療機器規制の国際統合を進める国際会議であるGHTF(Global Harmonization Task Force)がサプライヤー管理の強化をガイドラインとして打ち出しています。資材の品質が最終製品の品質に影響を与えることをお取引先にご理解いただいた上で、不断の品質向上や当社のシステム監査へのご協力をいただいています。当社では監査情報や資材の品質情報などについて工場間で共有化を図り、お取引先からの購入資材の品質向上に努めています。

## 社員とともに

全員が主役となって「自らを高め続ける努力をし、主体的に考えて行動する人」という意味を込めて、テルモグループでは社員のことを「アソシエイト」と呼んでいます。

テルモグループでは、企業の真の価値はそこで働く人たち、すなわちアソシエイトの価値の総和であると考えています。創立以来の企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」という使命を果たすため、テルモグループは、大切な資産であるアソシエイトが能力を最大限に発揮し、成長できる環境づくりに取り組み、一人ひとりが主役になれる会社を目指していきます。

### 働きがいのある職場風土の醸成

テルモでは、アソシエイトの個性を尊重し、一人ひとりの能力が最大限に発揮できる職場風土の醸成に取り組んでいます。また、成長意欲を持つ人には、自らの活躍の場を広げる機会を提供しています。こうした様々な取り組みを基に、アソシエイト一人ひとりの力をチームの力とすることで、仕事の成果を高め、活力のある強い組織づくりを目指しています。

#### 360° アンケート・働きがいアンケートの実施

テルモでは、「自由闊達な、明るい、働きがいのある」風土を目指して、全役員・部門長を対象とした「360° アンケート」と、国内の全アソシエイトへの「働きがいアンケート」を実施しています。各部署の風土を把握するとともに、リーダーがアソシエイト一人ひとりの意見を受け止め、より良い風土を築く「気づき」を得る機会として活用されています。

#### ACE公募

テルモでは、様々な部門・職種からの人材募集に立候補したアソシエイトが、自分の力で仕事を勝ち取る「ACE公募（社内の公募制度）」を1997年から行っています。公募対象は、高い専門性を必要とする製品の営業職から女性中心の商品マーケティングプロジェクトまで幅広く、2007年から始まったグローバル（海外駐在員）候補の公募では、これまでに24名が審査を通過し、すでに半数以上が実際に海外に赴任しています。2011年度は約50名の応募があり、審査を通過した10名が新たな活躍の場を勝ち取りました。



インドで活躍するACE公募合格者



## 現場の誇り賞

テルモの成長を支えているのは、際立って目に見える業績を残すアソシエイトだけではありません。「日々地道な努力を続けるアソシエイトにも光をあてる」という考えのもと、テルモでは「現場の誇り賞」の表彰を毎年実施しています。

2011年度は、現場で推薦を受けた約90名の中から、工場の設備保全の担当者や、自宅で医療機器を使用する患者さんのサポート担当者など6名が受賞しました。



2011年度「現場の誇り賞」受賞者

## 人材の多様性を生かす

テルモグループでは、性別・年齢・国籍にかかわらず、多様なアソシエイトの活躍が、これからの成長エンジンであると考えています。様々な価値観を受容し、お互いの文化を認め合うことで、異なる発想・知恵が自由闊達に混ざり合い、新しい価値を創造する企業を目指しています。

### 連結・地域別社員数

(人)

	2009年度	2010年度	2011年度
日本	4,823	4,962	5,048
欧州	1,654	1,732	1,837
米州	2,165	2,341	5,177
アジア他	5,098	5,726	6,050
合計	13,740	14,761	18,112

### 社員の構成(テルモ株式会社単体)

(人)

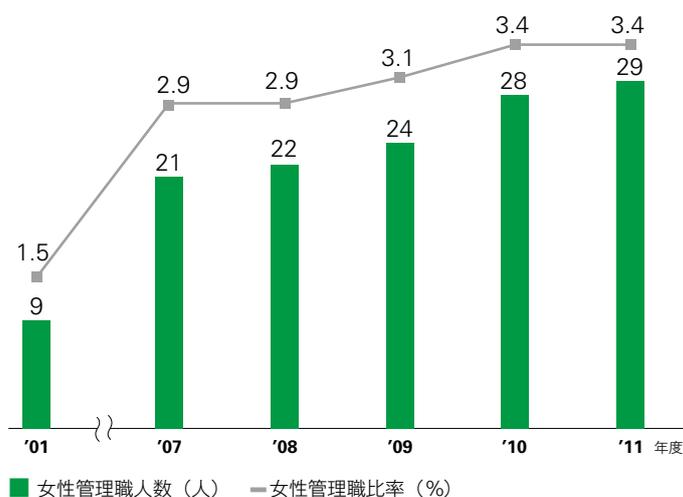
	2009年度	2010年度	2011年度
男性	3,961	4,051	4,123
女性	612	655	664
海外現地スタッフ	125	135	144
合計	4,698	4,841	4,931

## 女性の活躍支援

テルモでは、多様性を認め合い、企業の成長につなげていく第一歩として、経営トップが、女性の活躍を推進していくことをコミットしました。2011年度は、女性をもっと活躍できる環境・風土・意識を整えていくために、女性アソシエイトが現状の課題解決に向けた議論や、キャリアに関する意見を交換する「女性フォーラム」を各地で開催しました。その中で挙げられた課題に対する一つの方策として、新たに「女性メンター制度」を設けました。女性アソシエイト自身の意識やスキルを高め、組織を率いるリーダーへと活躍の場を広げる人が増えていくことで、新しい視点、新しい価値の創造に貢献できると考えています。テルモの女性管理職は徐々に増加して、2012年3月末現在、29人(3.4%)となっています。今後も成長意欲が高い女性アソシエイトが、さらに活躍できるような取り組みを進めていきます。



2011年度「女性フォーラム」風景



女性管理職人数および比率(テルモ株式会社 国内単体)

### Voice 海外で活躍する女性アソシエイト

テルモの企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」に向けて、私はオーストラリアとニュージーランド市場での売上・利益の達成、及び成長をもたらす事業計画の策定や実行に取り組んでいます。私はチーム組織とアソシエイト一人ひとりの成長を支えることが最も重要と考えています。継続的にスキルを高めることで、顧客への深い理解力が身に付き、変化し続ける事業環境の中で顧客が満足する製品やサービスのアイデアや方策が継続的に生まれます。それが「人にやさしい医療」の実現をもたらすと考えています。



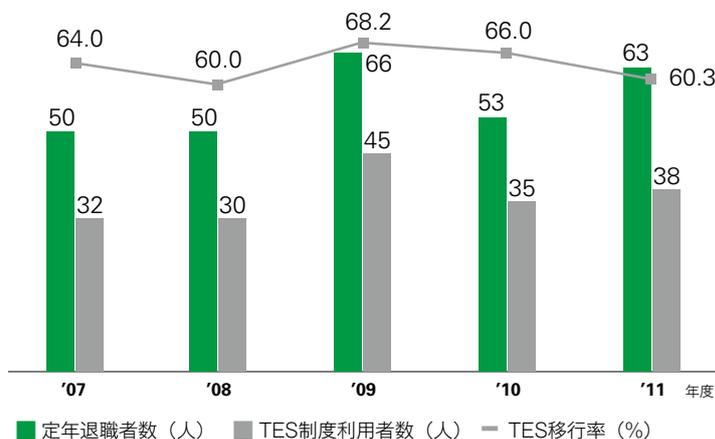
Sales and Marketing Manager  
- Terumo Australia 社

## TES (テルモ・エキスパート・システム)

テルモでは、アソシエイトが定年後も優れたスキル・ノウハウを発揮するための「定年退職者再雇用制度 (TES: テルモ・エキスパート・システム)」を1998年度から導入しています。

現在では、本人が希望し、労使で定めた基準や条件に合致するアソシエイトが、長年培ってきた専門力を発揮して60歳以降も活躍を続けています。

専門分野のみならず、若手アソシエイトへの指導や助言など、様々な場面でベテランの専門力が会社を支える力となっています。



TES制度利用者数および移行率

## 障がい者の雇用

テルモでは、一人ひとりの能力や適性に応じた活躍の場を提供することで、自立した社会生活を送ることができるように、障がい者の雇用促進に努めています。

障がい者雇用率は、2012年3月末現在で1.86%と法定雇用率(1.80%)を超えていますが、これからも一人ひとりの能力を最大限に発揮できる機会を拡大していきます。

## ワーク・ライフ・バランス

テルモでは、誰もがイキイキと働き、能力を発揮することができるよう、アソシエイトの多様なワーク・ライフ・バランスの向上に向けて、「時間と場所の融通性拡大」をキーワードに、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入しています。

特に、介護や育児などのライフイベントに応じた制度は、アソシエイトの仕事と家庭生活の両立を支援するものとして、必要に応じて随時拡充しています。

### ■ 介護・育児支援制度

テルモでは、従来の制度をさらに充実させ、新設・拡充を進めています。

「時間と場所の融通性」を高め、仕事と家庭生活の両立が可能な、より柔軟性の高い働き方が実現できるように制度の充実を図っています。

### 介護・育児支援制度の一例

制度		内容※1
介護※2	介護休業	要介護者1人につき、通算で最大3年まで休業取得が可能 また介護休業開始期には、失効有休休暇を最大30日利用可能
	介護短時間勤務	通算で最大3年間、1日最大2時間の就業時間短縮が可能
	介護時差勤務	通算で最大3年間、就業時間を最大1時間の繰上げ・繰下げが可能
育児	育児休業	子が3歳に達するまでを上限に休業取得が可能 また育児休業開始期には、失効有休休暇を最大30日利用可能
	育児短時間勤務	子が「小学校卒業」までの間、1日2時間の就業時間短縮が可能
	育児時差勤務	子が「小学校卒業」までの間、就業時間を最大1時間の繰上げ・繰下げが可能
その他	時間単位有休	取得事由を問わず、1時間単位で柔軟に休暇取得が可能

※1 掲載内容は、一部抜粋です。

※2 介護休業・介護短時間勤務・介護時差勤務は合計で通算3年間で最大としています。

また、最近では育児休業を取得する男性アソシエイトも増えてきました。こうした制度を利用し、活躍しているアソシエイトを社内のイントラネットで取り上げることで、制度を周知し、制度をより使いやすくする雰囲気づくりも行っています。

### 産休および育休の取得者数(テルモ株式会社 国内単体)

(人)

		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
産休取得者数		19	20	21	22	19
育休取得者数	女性	19	25	20	22	28
	男性	0	0	1	8	7

### ■ キャリアリターン制度

テルモでは、介護・結婚・出産・育児・配偶者の転勤により退職したアソシエイトに再雇用の道を開き、再びテルモで活躍することを支援する「キャリアリターン制度」を導入しました。

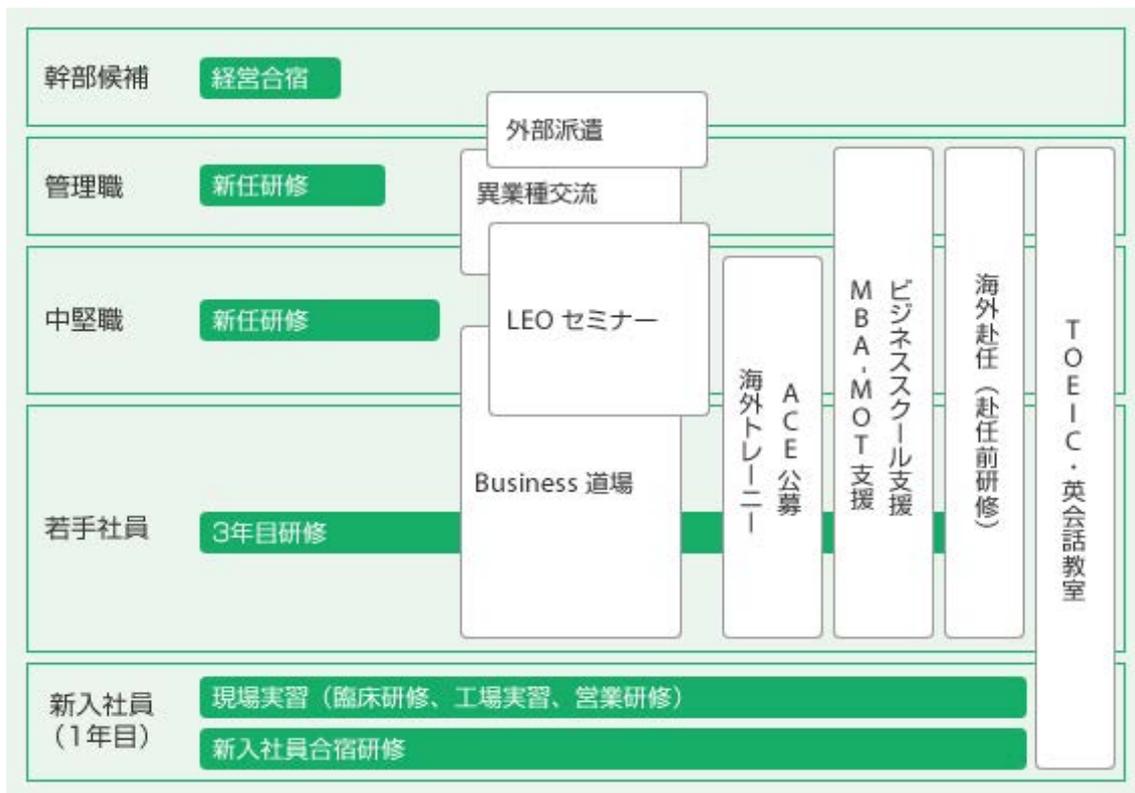
一旦キャリアを中断せざるを得なかったアソシエイトのスキル・ノウハウを復職が可能となった時点で再び発揮してもらうことで、働き方の選択肢を拡大するとともに、多様な経験とそこから生まれた価値観を生かせるようにしていきます。

## 一人ひとりの価値を高める

テルモでは、アソシエートの価値の総和が、企業の真の価値であると考えています。

人材の育成は、仕事の実践を通じたOJT (On the Job Training)を前提とし、それを補完する役割として各種の研修が構成されています。

また、「最大の学習効果は、自ら興味を持ち、学ぶ必要性を感じたときに発揮される」という考え方から、テルモでは多くの研修が自ら立候補して臨む自発的なスタイルとなっています。



テルモ研修体系 概略図

### グローバル人材育成

テルモグループでは、これからのグローバル化推進に向けて、異文化を理解し多様性を踏まえたコミュニケーション能力とリーダーシップを併せ持つ、志の高い人材育成を重要な方針に掲げています。

#### LEOセミナー

「LEOセミナー」では、グローバルな経営感覚に優れ、変革に向けたリーダーシップを取ることができる人材の育成を目的に、約100名の応募者の中から約30名(20～40代)が選抜されます。4か月間にわたるセミナーでは、異なる価値観を汲み入れた教養を身につけるとともに、経営課題についてグループで夜を徹して議論し、事業プランを経営陣に提案します。



2011年度 LEOセミナー風景

## グローバルチャレンジ

グローバルで通じるビジネススキルの習得に取り組む場として、将来、海外で仕事をする強い意志とプランを持つ35歳以下のアソシエイトを応募対象とした「グローバルチャレンジ」を2011年度に行いました。世界で通用するグローバルキャリアについての講義を受けた後、世界に提供したい価値について自らのビジョンを発表するとともに、議論の論理展開や説得力を競い合うディベートのセッションが行われました。



2011年度 グローバルチャレンジ風景

## MBA等 取得支援制度

テルモでは、今後のグローバル経営に向けた人材育成のため、国内外において自主的にMBAなどの資格取得を目指し、自己成長を果たそうとする人材を支援する制度を設けています。

対象者には、就学に必要な期間の休職を可能とし、休職開始前には過去に失効した最大100日の有給休暇を利用できるようにしています。また会社が認めた場合には、学費や休職期間の生活費を会社から無利息で借りることができる仕組みや、さらに一定の条件を満たした場合は、入学金や授業料の一部を会社が支援する仕組みも導入しています。

知識やスキルの習得だけでなく、異業種の仲間との交流や、異文化に身を置くといった貴重な経験をすることを重視しています。

### 【Topics】 e-Learning を活用した取り組み

同じテルモグループにあっても、各地域・各社によって人材育成に関する背景や状況も様々です。一方で、ベースとなる価値観や遵守すべき基本的な事項は、グループ全体で共有されなければなりません。

テルモBCT社やテルモアメリカスホールディング社では、テルモグループ行動基準(SAKURARULE)やマネジメント・トレーニングなどに対してe-Learningを活用し、効率的な研修環境を提供しています。

## 労働安全衛生の取り組み

テルモグループでは、誰もが安心して働ける職場があって初めて、会社の大切な資産であるアソシエイトが能力を最大限に発揮することができると考えています。

労働災害を未然に防ぎ、また発生した場合でも、その労働災害を最小限に抑えるよう、職場環境の安全衛生を確保する取り組みを続けています。

### 労働安全衛生管理体制

テルモでは、アソシエイトの安全を守るため、工場、研究開発本部、営業拠点、本社の各事業所で、労働安全衛生管理体制を取り、委員会を開催しています。労働災害ゼロを目指し、5S活動をはじめとして、危険箇所の見直しや未然に危険を防ぐ取り組みを行い、委員会などへ報告することで情報を共有しています

2011年度の休業労働災害件数は2件(前年度：2件)でした。今後も、死亡・重大労働災害ゼロと労働災害件数の削減を目指していきます。

### 休業労働災害件数・度数率<sup>※1</sup>・強度率<sup>※2</sup>

	2009年度	2010年度	2011年度
休業労働災害件数	0	2	2
度数率(%)	0.68	0.66	0.97
強度率(%)	0.00	0.00	0.00

※1 度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの

※2 強度率：1,000延べ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表すもの

### 従業員の健康管理

テルモでは、アソシエイトの健康増進を支援するため、定期健康診断に加え、生活習慣病検診の受診促進など、健康保険組合と協力し、個別の健康管理指導にも努めています。また、身体面のみならずメンタルヘルス面の健康も保つため、新入社員・一般社員にはストレスケアの研修、リーダー職の社員にはメンバーのケアやマネジメント方法の研修など、対象に応じた様々な研修を実施しています。

## 社会貢献活動

### 病気の予防に役立つ情報を提供

#### テルモ健康天気予報™

気象が健康状態や疾病に与える影響を予報する「テルモ健康天気予報」。予報項目は、関節痛、熱中症、ぜんそく、血圧、片頭痛などで、独自の計算式で導き出した予報をウェブサイトを提供しています。予報対象地点は全国48地点、毎日3回更新しています。

テルモが行った健康と気象に関する意識調査では、81%の人が「気象や季節の変化」と「体調」は関係があると思っており、73%の人が実際に体験していることが分かりました。

「テルモ健康天気予報」は、生気象学に基づいた病気の発症予防や悪化防止に役立つ情報としてご好評をいただいています。



ウェブサイト「テルモ健康天気予報」

#### テルモ体温研究所

「テルモ体温研究所\*」では、テルモ創業の原点である身近な「体温」を日々の健康管理に役立てていただけるよう、専門の先生方と連携しながら調査研究や啓発活動を進めています。調査研究では、体温計測に関わる実態調査や次世代の体温測定に向けての探索や学会発表を行っています。また啓発活動では、「体温と生活リズム」をテーマに小中学校の生徒や保護者、教職員の皆様に向けて公開授業・セミナーを行っています。2011年度は、約30か所で公開授業・セミナーを行い、生活リズムの乱れによる体温への影響や、体温の正しい測り方についてお伝えしました。文部科学省と「早寝早起き朝ごはん全国協議会」が推進するプロジェクトにも加盟し、生活習慣の改善について啓発しています。

ウェブサイトでも、発熱やその対策、熱中症、高齢者や乳幼児の体温など、様々な情報を発信しています。

また、2010年には、中国でも体温に関する情報の発信を開始し、日本のドクターによる講演会の開催や女性の健康ウェブサイト「身体悄悄話」をオープンしました。

\* テルモ体温研究所：体温から健康を考え、体温情報の提供や新しい健康生活を提案するテルモの研究所。



正しい検温方法を啓発



ウェブサイト「テルモ体温研究所」

### 「下肢静脈瘤・リンパ浮腫市民セミナー」を開催

テルモでは、下肢静脈瘤・リンパ浮腫の啓発促進と症状改善や進行予防を目的として、地域の方へ医療情報を提供するセミナーを開催しています。セミナーでは、下肢静脈瘤の原因や治療法などの情報と、弾性ストッキングの使用が症状改善・予防につながることや、適正な装着方法をお伝えしています。また、主にながん治療の後遺症であるリンパ浮腫について、その原因や症状、早期治療の重要性をお知らせしています。2011年度は全国5か所で開催しました。



下肢静脈瘤セミナーの様子

### 「新健康カレッジ」を開催

テルモは聖路加看護大学と共同で、市民向けの健康支援セミナー「新健康カレッジ」を2008年より開催しています。市民の皆様が主体となって自らの健康をつくり育てる社会の実現を目指し、生活習慣病予防やインフルエンザなど身近な疾患をテーマに様々なセミナーを実施しています。聖路加看護学園理事長、日野原重明氏をはじめ、著名な専門家の講師陣が分かりやすく解説する内容にはご好評をいただいています。



新健康カレッジの様子

### ペットの健康に役立つ情報を提供

2011年1月より、ラジオ番組「宏子先生の動物クリニック」を提供しています。ペットを飼っている方はもちろん、動物が好きな方にも「楽しんで、役に立つ、ワンポイント情報」をお届けしています。ペットオーナーの皆様からご好評をいただいております。放送開始9年目となる長寿番組です。

#### ラジオ「宏子先生の動物クリニック」

毎週日曜日午後2：40～2：50 文化放送 1134kHz(関東)



獣医師の立場で親身にアドバイス

## 医療の発展への貢献

### テルモ科学技術振興財団

当財団は1987年に設立され、2012年4月に「公益財団法人 テルモ科学技術振興財団」として新しく登記しました。生命科学に関わる研究を中心に助成や振興を図り、これまで計825件(約12億円)の助成を行ってきました。

2011年度は、特定研究助成として「脳梗塞への応用を目指した複合型Muse細胞移植システムの開発」など3件、一般研究助成として22件、国際交流助成として34件に助成を行い、2012年3月には助成者が一堂に会し、贈呈式を行いました。

2012年には財団設立25周年を迎えることを記念して、バイオマテリアル研究を通じて再生医療分野の発展に寄与した研究者を対象に表彰する「テルモ国際賞」を創設、第一回受賞者には米国マサチューセッツ工科大学(MIT)のロバート・ランガー教授が選ばれました。2012年7月、日本で授賞式と講演会を行い、新設した財団賞の表彰も同式典にて行う予定です。

また、2009年に教育啓発活動の一つとして開設した中高生向け生命科学情報ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」は年間アクセス数も毎年増えています。今回、この中から若手研究者インタビューをまとめた「いのちの不思議を考えよう」を出版し、関係者および全国の高校に配布しました。さらに、2012年8月には、東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島の3県の高校生を東京の東京女子医科大学-早稲田大学連携先端生命医学研究教育施設に招待し、最新の再生医療、ロボット工学などを学んでもらうサイエンスカフェを開催する予定です。



2011年度 研究助成金贈呈式



出版物：いのちの不思議を考えよう

## 中国の医療の質的向上を目指す「テルモ基金」

2007年、中国浙江省にある杭州工場(泰尔茂医療産品(杭州)有限公司)の操業10周年を機に、少しでも多くの方が医療の恩恵を受けられるようにと、浙江大学に「テルモ基金」を創設しました。

東洋と西洋の医学を融合した新しい医療の創造を目指す研究への助成を行うほか、優秀な学生を対象に奨学育成金を寄贈し、中国における医療の質的向上に貢献しています。第一期(運営期間：2007～2009年)が終了し、2010年度より、第二期として継続しています。

### 「テルモ基金」概要

基金名： 泰尔茂基金(第二期)  
 基金内容： 「泰尔茂研究助成基金」と「泰尔茂奨学金」  
 基金総額： 年間40万元×3年間=120万元  
 運営期間： 2010～2012年

## 地域社会への貢献

### ホスピスへクリスマスの贈りもの

テルモ湘南センターでは、クリスマスの期間にアソシエイトが自主的にチームを組んで、同センターの外壁にイルミネーションの飾り付けを行っています。また、クリスマスイブには地域とホスピスの皆様に打上花火を、そしてホスピスではテルモ男声合唱団から歌声のプレゼントもお届けしました。この企画は、同センターの向かいにあるホスピスに入院されている患者さんやそのご家族、地域住民の方々にクリスマスを楽しんでいただきたいとの思いから、1997年より毎年実施しているものです。2011年は電力抑制もあり、5日間と例年より短い期間でしたが、ツリーをはじめとする4種類のイルミネーションをお楽しみいただきました。



歌声を届けるテルモ男声合唱団



湘南センターの外壁を利用したイルミネーション

## 各地域での活動

テルモでは、地域への身近な社会貢献の一環として各事業拠点で様々な活動を行っています。

- 本社隣接の公道・公園の清掃(毎週実施)
- 多摩川河川敷のごみ拾い活動(毎年春と秋に参加)
- 湘南センター周辺のクリーンアップ活動(総勢51名参加)
- 富士宮工場周辺のクリーンアップ活動(総勢69名参加)
- 愛鷹工場、MEセンター周辺のクリーンアップ活動
- 営業支店周辺のクリーンアップ活動(総勢273名参加)

※ 参加者数は2011年度実績

## エコキャップ回収の取り組み

テルモでは、「NPO法人エコキャップ推進協会」で実施しているエコキャップ運動に参加しています。この運動は、ペットボトルのキャップを分別回収し、キャップを再資源化する一方、その売却益で発展途上国の子どもたちへワクチンを贈る運動です。2011年度に回収されたキャップは660人分のポリオワクチンに相当しました。



社内での取り組みの様子

## 献血活動

テルモでは、各事業所や支店など、それぞれの職場で献血を行っています。2011年度は全国29か所の事業所、支店で計773名の協力がありました。商品の一つである献血用バッグの生産だけでなく、実際の献血活動を通じた貢献も継続していきます。



社内による献血活動の様子

## 被災地支援

テルモでは、東日本大震災の被災地に向け、義援金、支援金、医療物資を合わせ、総額2億4千万円相当を寄贈しました。

### 支援の概要

東日本大震災義援金、支援金および医療物資 総額2億4千万円相当を寄贈

#### 医療物資

体温計	30,000本
血圧計	4,000台
圧迫(弾性)ストッキング	13,000足
栄養補助食品	53,000個
その他(消毒液、マスクなど)	

#### 主な寄贈先

岩手県・宮城県・福島県の各自治体および看護協会、日本赤十字社、日本看護協会、日本慢性期医療協会、  
全国老人保健施設協会、日本チェーンドラッグストア協会など

## 災害支援

テルモでは、医療機器や医薬品の不足が深刻な自然災害の被災地へ、医療機器などの物資を支援しています。2011年度は、洪水被害を受けたタイへ生理食塩水(1000mLタイプ)18,080本を寄贈しました。

## 海外での活動事例

### テルモペンポール社 地域への支援活動

インドのテルモペンポール社では、2005年より地域の公立小学校への支援活動を続けています。書籍やかばん、文具などの寄贈から、図書館、教室、実験室、トイレなど設備面の支援も行っています。

また、2009年にはテニスコートを小学校に設置し、ミニテニスのトーナメントを主催しています。“Quick Start Tennis”として、地域の子どもたちにスポーツ面での支援も行っています。

これらの活動は、地域の子どもたちの教育環境の改善と社会参加の機会増加につながっています。



小学校での贈呈風景

### 各国での活動

海外のテルモ各社では、それぞれの地域で社会貢献活動に参加しています。

#### テルモアメリカスホールディング社／テルモメディカル社

「小児糖尿病研究財団 (JDRF)」に協賛しています。毎年開催される糖尿病の子どもたちの健康維持に向けたウォーキング大会には、11年にわたり「チームテルモ」を組んで、毎年参加しています。



ウォーキング大会に「チームテルモ」で参加

#### テルモカーディオバスキュラーシステム社

米国がん協会が主催するウォーキング大会への参加、地域の方々へ食事や衣服などを提供する活動を継続しています。

#### マイクロベンション社

2011年度は、手づくりの焼き菓子を持ち寄って売るBake Saleによる売上などを、日本の災害復興支援金として寄付しました。ストリートピープルへ食事や衣服などを提供する活動も実施しています。



日本の災害復興支援のための手づくり菓子バザー

#### テルモイタリア社

“Italia ProNepal”というプロジェクトに参画して、カレンダーの作成などを行い、その収益金でネパールの子どもたちへの医療や基本的な物資の支援を行っています。

## 特集：生物多様性保全の取り組み



テルモでは、生物多様性保全に取り組んでおり、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

### 富士山森づくり～テルモ恵みの森

テルモは静岡県富士宮市に二つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などを生産しています。自然の恵みを利用して事業を行う企業として、2003年から、台風によって倒壊の被害を受けた富士山の森林を、郷土樹種による植林によって、災害に強く地下水の源となる自然林に再生する活動「テルモ富士山森づくり」を行っています。

#### しずおか未来の森サポーター協定を締結

2011年9月13日、テルモ、森林所有者竹川氏、静岡県の3者で「しずおか未来の森サポーター協定」の締結をしました。

#### 協定概要

- **目的**  
富士山麓の重要な水源としての森林を、地域との交流を深めながら守り育てる
- **活動場所**  
富士宮市麓(私有林)1.65ha
- **活動内容**  
森林の整備(草刈、枝払い、間伐、植栽等)
- **協定期間**  
年間(2011年度～2015年度)
- **役割**  
テルモ：アソシエイトによる森づくり活動  
森林所有者・竹川氏：テルモと連携した森づくり活動  
静岡県：情報発信、活動の助言・指導、認定証の発行

また、活動場所の富士宮市麓地内の森林私有地1.65haを、社内公募により「恵みの森」と命名しました。2011年度から5年間、植林や森林整備を実施します。



協定締結式の様子



「恵みの森」看板

### 2011年度の取り組み

2011年10月、テルモアソシエイトとその家族に、森林のある麓地区の中学生を合わせた総勢約180名のボランティアが森づくり活動に参加しました。植林当日は、あいにくの雨により予定していた全員での植林はできませんでしたが、東京農業大学の先生による富士山の自然・生物から歴史・文化までの幅広い講演を聞き、周辺の森林散策も行うなど、自然への関心を深めることができました。

植林については、後日関係者と一部の有志でクヌギ、コナラなどの広葉樹200本の植林を実施しました。

2012年度以降もアソシエイトのボランティアによる植林や、整備作業などをしていきます。



森林散策



植林の様子



「しずおか未来の森サポーター」協定に締結し、テルモ様と一緒に森づくりを開始することになりました。これまでは個人で森の整備をしてきましたが、これからはテルモ様の多くの社員の皆さんやご家族、地元の中학생とともに皆で楽しみながら恵みある森を創っていききたいと思います。

森林所有者 竹川 将樹 様



## アソシエイトが自主的に取り組む「ECOチャレンジ」

アソシエイトとその家族が、オフィスや家庭でエコ活動に挑戦する「ECOチャレンジ」キャンペーンを、毎年夏の期間に実施しています。

キャンペーンでは、参加者に具体的なエコ活動の項目を記載したチャレンジシートを配布し、各自が自主的にエコ活動に取り組みます。また、環境社会貢献活動の一環として、参加したアソシエイトの取り組みをポイント化し、取り組み成果に応じて会社が「公益財団法人 オイスカ」のプログラムに寄付しています。

2011年度は「節電」をキーワードに例年の約1.5倍の3,372名が参加し、身近にできるエコ活動に取り組みました。また、寄付先のプログラムについては「子供の森」計画と共に新たに「震災復興支援」として、子供たちに遊びの場や心を開放する場を提供する「森のつみ木広場」、東日本大震災で被害を受けた「海岸林再生プロジェクト」を追加して開催しました。

チャレンジ項目		7月	8月	9月
■オフィス編				
照明	昼休みや使っていない部屋の照明は消灯する			
エアコン	個別空調を使用する場合は、設定温度28度に設定する			
エレベーター	なるべく階段を使用し、エレベーターの使用を控える			
待機電力	昼休みや帰宅の際など、PC等のOA機器のコンセント（主電源）を抜く			
省電力	コピーやプリントアウトは必要最低限にとどめる			
■家庭編				
照明	必要のない灯りはこまめに消す			
待機電力	家電製品は、使用しない時はコンセント（主電源）を抜く			
家電製品全般	家電製品を省エネモードに設定する			
エアコン	必要なときだけ使用し、使用時は28℃設定をこころがける			
冷蔵庫	余分な開閉や詰めすぎはしない			

チャレンジシート(一部抜粋)

### 「子供の森」計画

子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら、地球の緑化を推進することを目的としたプログラム。テルモからの寄付金は、フィリピンの子どもたちの環境教育や、苗木を植えて育てていく森づくり活動などに使用されています。



### 森のつみ木広場

地元の「間伐材」からできたつみ木を使用し、子どもたちが仲間との作品づくりを通じて創造性や協調性、また森に興味を持ってもらうためのプログラム。東日本大震災の影響による避難生活の中で子どもたちのストレスや不安を解消する場の一つとして、「森のつみ木広場」を被災地で提供しています。子どもたちは木のいい香りに囲まれて協力し合って積み木をしながら友だちや大人たちと遊ぶことで、たまっているストレスの緩和ができる場所となっています。



### 海岸林再生プロジェクト

海岸林は、飛砂防備や防風、津波に対する減衰機能など、地域の生活環境の保全に重要な役割を果たしています。東日本大震災の際の津波による海岸林の喪失によって、東北沿岸部における塩害は日々深刻化しています。「海岸林再生プロジェクト」では、被害を受けた海岸林の再生に向け、種苗の生産拡大・植栽・育林を推進するとともに、農地回復や、被災地域での雇用創出を通じた地域振興に取り組んでいます。



## 環境にやさしい企業を目指して

「人にやさしい医療」と「環境にやさしい医療」の調和を目指すテルモは、環境基本方針や環境マネジメントシステムを整備し、地球環境との共生に積極的に取り組んでいます。



### 環境基本方針で環境保全の意識を共有

テルモでは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき、1999年に「環境基本方針」を制定しました。この方針のもと、医療分野のリーディング企業として地球環境の保全に取り組んでいます。地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提であり、グループ全体で推進しています。

#### 環境基本方針

私たちテルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、医療の安全と安心を提供することを基本に、リーディング企業として責任ある環境保全活動を展開し、信頼される企業市民をめざします。

- 自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます。
  - 事業が環境へ与える影響の把握
  - 環境に配慮した商品開発
  - 環境汚染の予防
  - エネルギーや資源の有効活用
  - 廃棄物の削減など
- 各国の環境保全に関する法律、条例、協定等を遵守します。
- 環境保全に関する推進体制を設け、推進・監査に努めます。
- 社会や地域の一員として環境保全活動への支援、協力を努めます。
- 社内広報活動や教育を行い、社員の環境保全に関する意識の向上に努めます。

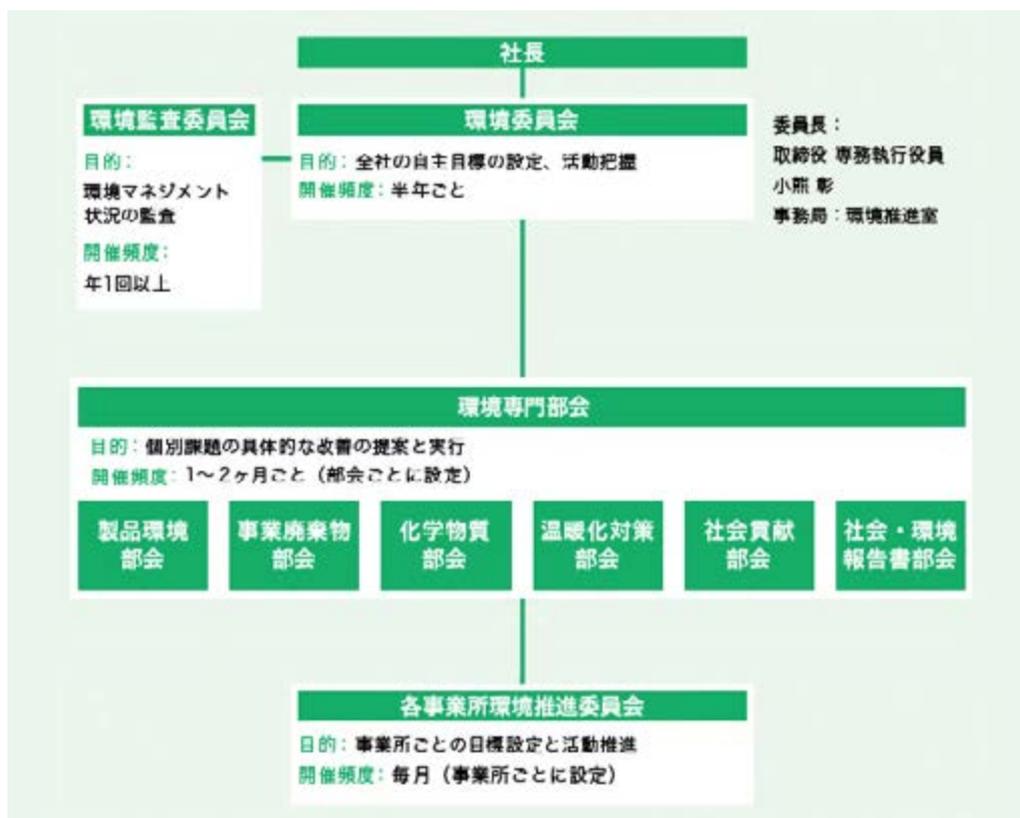
制定 1999年12月

## 環境マネジメントシステムを整備

効率的で実効性のある環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクル\*を活用して環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。環境管理の最高決定機関である「環境委員会」は、全社における環境保全の施策や目標を設定し、活動状況の把握などを半期ごとに行っています。また、「環境監査委員会」は、各事業所に対して内部監査を行い、システムの有効性や運営状況を確認。その活動内容は毎年公表し、透明性の高い経営・組織体制の維持に努めています。

\* PDCAサイクル：Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）の4つのプロセスを反復させ、継続的な業務改善を図るマネジメントサイクル。

### 環境管理全社推進組織



### 【Topics】テルモヨーロッパ社で ISO14001 / OHSAS18001 認証取得

テルモヨーロッパ社ハースロード工場では、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001と、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格OHSAS18001の認証を、2012年2月に取得しました。ここでは、主にヨーロッパ市場向けにカテーテルやガイドワイヤーなどの医療機器を生産しています。法令遵守はもとより、より環境への負荷が小さい工場、安全で安心して働ける職場を目指して、今後も継続して環境・安全衛生活動を進めていきます。



ISO14001 認証書



OHSAS18001 認証書

## アソシイト向け環境研修

環境基本方針やテルモの一員として行うべき環境活動への理解を深めるため、新入社員研修をはじめ、営業拠点や工場などそれぞれの業務内容の特性に合わせた環境教育を実施しています。また「良き企業市民」として環境に対する意識を高め実行することを目的に、社内イントラネットでの環境情報の配信や家族を含めて参加できるエコキャンペーンを実施しています。



アソシイト向け研修

## 環境意識を高める環境掲示板

愛鷹工場では、2002年より「環境掲示板」を設置し、月1回更新しています。

エネルギーや廃棄物などに関する工場環境負荷情報や地球温暖化の仕組み、家庭でできる省エネ情報などを、グラフやイラストを用いて分かりやすく紹介しており、情報の提供と共有、環境意識の醸成に役立っています。



愛鷹工場環境掲示板

## 社内環境表彰制度

1999年度に、環境保全に著しい成果をあげた施策や活動を表彰する社内表彰制度を設立しました。2003年度からは国内のみならず、テルモグループ全体の制度となりました。

表彰年度	表彰部門	件名
2011年度	テルモフィリピンズ社 Engineering - Facilities部門	テルモフィリピンズ社の省エネ・コスト削減活動

### 【Topics】 校外学習の受け入れ

環境学習授業の一貫として、中学校の生徒さんたちがテルモを訪問され、テルモの事業所での環境活動や製品における環境配慮、身近にできる環境活動などを紹介しました。テルモの環境への取り組みや、身近にできる環境活動の大切さを学ぶことができたこと、後日お礼の手紙をいただきました。



学習風景

## 環境に配慮した商品

「人にやさしい医療」と「環境にやさしい医療」の実現を目指し、医療従事者や患者さん、そして地球環境にもやさしい製品の開発に取り組んでいます。

### Human×Eco® (ヒューマン・バイ・エコ)開発指針

テルモは、企業ビジョンとして「人にやさしい医療」の実現を目指しています。「人(Human)にやさしい医療」とは、患者さんの身体への負担を少なくする、感染を防ぐ、医療従事者が使いやすいものを提供することなどを通じて、医療の安全性・効率性を高めていくことです。

このことは同時に「環境(Eco)にやさしい医療」にもつながります。ひとたび感染や医療事故が起これば、その対応に本来は必要のない医療資源が使われることとなります。安全で効率性の高い製品を開発することは、医療現場におけるEcoへの貢献でもあると、私たちは考えています。

テルモでは、人にも環境にもやさしい製品開発を進めるための独自の基準「Human×Eco®開発指針」(4つの原則と24項目の指針)を策定し、製品の開発にこの基準を適用しています。特に優れた商品には、自社認定マーク(「Human×Eco®」マーク)の表示をすることで、お客様にも分かりやすくお伝えしています。

#### Human×Eco®開発指針[4つの原則]



## 有害物質対策

### 脱水銀の先駆けとして

テルモは1983年に、国産初の予測式電子体温計を発売しました。翌年、環境面に配慮し、水銀体温計の生産をいち早く終了しました。その後も水銀を使わない電子血圧計を発売するなど、さらなる脱水銀化に努めています。



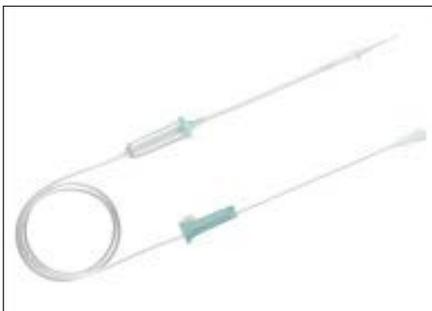
電子体温計



電子血圧計

### 脱塩ビとDEHPフリーを推進

焼却時に有害ガスが発生するとされる塩化ビニル樹脂(PVC)や、毒性の懸念が指摘されている可塑剤のDEHPを他の可塑剤に代替した商品を供給(代替が可能な場合のみ)しており、包装においても不使用を進めています。



輸液セット



輸液剤バッグ



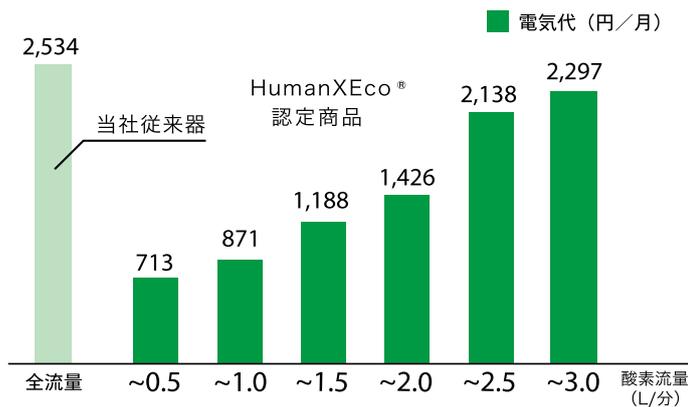
人工心肺回路

## 省電力

### 小型軽量化、省電力を実現した酸素濃縮装置

流量に合わせてコンプレッサーの動きを細かく制御することで使用電力を削減し、小型軽量化した酸素濃縮装置を発売しました。また内蔵バッテリーを搭載しており、停電時や災害時にも安心です。万が一の火災発生時の延燃を防ぐ「酸素出口過熱検知機能」を搭載しています。

### 1か月あたりの電気代負担比較



「HumanXEco®」認定商品  
酸素濃縮装置

※ 1kWh22円(税込) (社)全国家庭電気製品公正取引協議会「新電力目安単価」で計算

## 省資源／ゴミ削減

### 柔軟性・携帯性 — 世界100か国に広がる血液バッグ

輸血の安全性向上を目指し、1969年に国産初の血液バッグを販売しました。採血チューブと容器を一体化したプラスチック製のバッグは、ガラス製のものに比べて柔軟性・携帯性に優れ、輸送時のコスト、廃棄容量ともに削減できます。



血液バッグ

### 幅広いタイプの治療に対応 — PTCA用バルーンカテーテル※

素材やバルーンのたたみ方などを改良し、幅広いタイプの治療に対応できるPTCA用バルーンカテーテルを開発しました。患者さんにこれまでより少ない本数で治療することが可能となり、省資源化に貢献しています。



PTCA用バルーンカテーテル

※ PTCA用バルーンカテーテル：カテーテルの先端に装備したバルーン(風船)を膨らませて血管を押し広げ、狭まった血液の通路を拡張するために使用する医療機器。

## 軽量・小型化

シリンジ(注射筒)を、容量・機能性はそのままに、軽量・小型化しました。廃棄時の重量で25%減を実現しています。小型化することで輸送時の環境負荷やゴミの排出量を削減。在宅医療で使う腹膜透析液バッグでは、家庭での廃棄物削減を考慮して40%減の軽量化を実現しています。



シリンジ



腹膜透析液バッグ

## パッケージ化と廃棄重量・容量削減

手術に必要な商品一式をパッケージ化したソリューションパック。包装資材の重複や管理の無駄をなくしました。また、常にパッケージの方法や形状などを工夫し、トレイの形状変更で廃棄時のかさ小さくする(当社従来品比約53%削減)など、さらなる廃棄重量・容量の削減を実現しています。



「Human×Eco®」認定商品  
血管造影キット

## 一体化 — 水分調整の手間を省く、とろみ付き栄養食品

水分や粘度の調整に使用していた栄養ボトルが不要となり、ボトル洗浄の手間や廃棄物を削減することが可能となりました。また、水と「とろみ栄養」を一つにすることで、医療従事者や介護者の負担を軽減しました。



「Human×Eco®」認定商品  
とろみ付き栄養食品

## 一体化 — 複数の薬剤をワンバッグに

使用前に混注が必要な輸液剤をワンバッグ化しました。複数のものを一体化することで、包装材料や混注時に使用するバイアル瓶・注射器などのゴミを削減できました。



輸液バッグ

## 一体化 — プレフィルドシリンジ

あらかじめ注射器に薬剤を充填したプレフィルドシリンジでは、薬剤の吸引・溶解などの作業が不要だけでなく、アンプルやバイアル瓶の廃棄物がでません。

プラスチック製なのでガラス製に比べ割れる可能性が低く、重量や分別などの点で廃棄性にも優れています。



プレフィルドシリンジ製剤

## 一体化 — 動脈フィルター— 一体型人工肺

人工肺と動脈フィルターを一体化したことで、血液回路の部品点数および原材料を削減しました。



人工肺

# 地球温暖化防止

地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提です。

テルモでは、事業所での省エネルギー活動に加えて、「チャレンジ25キャンペーン」への参加など全員参加型のエコ活動を行い、二酸化炭素排出量の削減を推進しています。

また、電力使用について、節電対策と電力の見える化に取り組んでいます。

## 二酸化炭素排出量削減目標

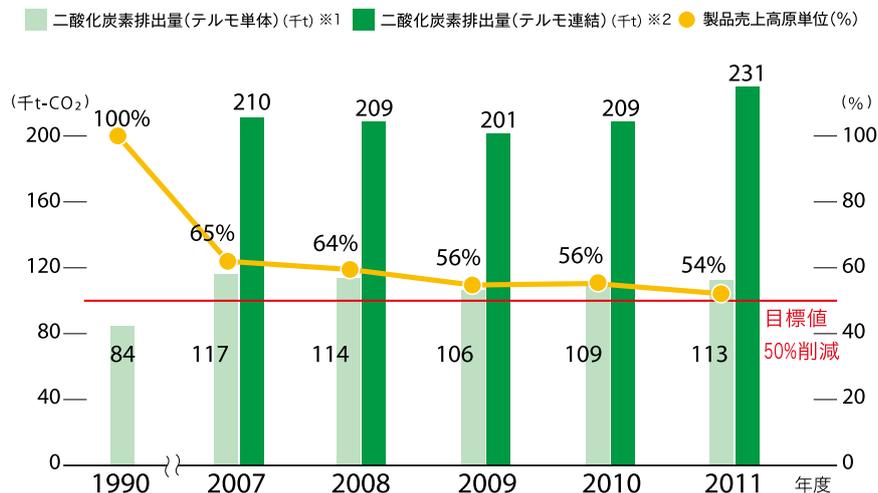
テルモでは、2012年度までに二酸化炭素排出量を製品売上高原単位で1990年度比50%削減\*という目標を掲げて、地球温暖化防止に取り組んでいます。

二酸化炭素排出量は生産量の増加に伴い年々増加していますが、2011年度の原単位は54%となり、1990年度比46%の削減となりました。

目標最終年度まで残り1年ですが、目標達成に向けて引き続き省エネルギー対策に取り組んでいきます。

※ テルモ国内事業所

### 二酸化炭素排出量と製品売上高原単位の推移



※1 国内事業所

※2 国内事業所、海外生産事業所

## 二酸化炭素排出量削減に向けた取り組み

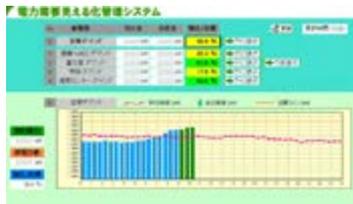
2011年度は東日本大震災の影響による電力供給不足の問題より、工場をはじめ本社・研究開発センター・営業拠点などのオフィス部門も含め、BCP(事業継続計画)とともに全社で節電・省エネルギー活動に取り組みました。

### 国内での取り組み

#### 工場・研究開発センターでの取り組み

当社の工場・研究開発センターはすべて東京電力管内にあり、夏の電力需要が逼迫する中、社内イントラネット上で事業所の電力使用状況を30分ごとのリアルタイムで見られるウェブサイトを作成しました。社内で公開することにより、事業所の全員が協力してピークカット対策を進めるとともに、社員全体の節電意識を高めることができました。

また、小型貫流ボイラーやターボ冷凍機、LED照明など省エネ機器の導入や、蒸気漏れなどの日常点検の徹底により、事業所一丸となって省エネルギー活動に取り組みました。



電力使用状況が確認できるイントラネット



小型貫流ボイラー

#### オフィス部門での取り組み

オフィス部門では、健康とエコを考えた階段の利用促進、空調温度設定の遵守、不要な照明の消灯や間引き、また効率よく仕事をして早く帰宅することを促すなど、積極的に節電に取り組みました。

### 海外での取り組み

#### 泰尔茂医療産品(杭州)有限公司(中国)での取り組み

泰尔茂医療産品(杭州)有限公司では、生産エリアを含む工場内のほぼすべての照明を電力使用量の少ないLED照明に切り替えています。廊下や事務所などの非生産エリアでは、照度に問題がなければ、従来の蛍光灯2本の照明を1本のLED照明に置き換えるなどの工夫も行っています。屋上には太陽熱温水器を設置して太陽熱エネルギーで温水を作るなど、再生可能エネルギーも利用しながら地球温暖化防止に取り組んでいます。



LED照明



太陽熱温水器

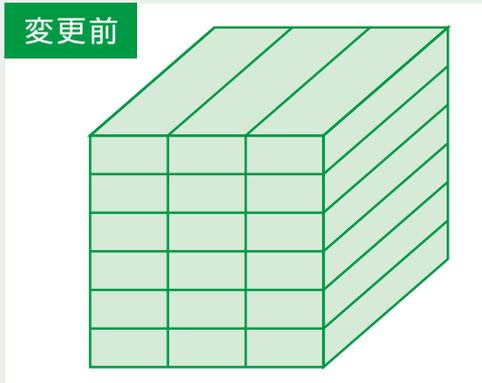
## 物流の環境負荷低減への取り組み

商品を輸送する際に使用されるエネルギーの削減は、地球温暖化防止の重要なテーマです。

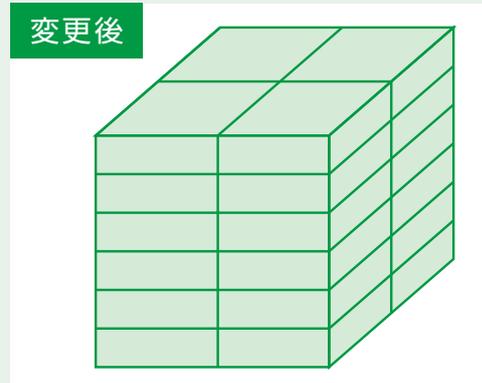
テルモでは、輸送効率の高い委託輸送や海上輸送などのモーダルシフトによるエネルギー使用量の削減、物流拠点の統廃合など、物流を効率的にする取り組みを行っています。2006年度から物流環境負荷データの把握を開始し、環境負荷低減を進めるために、トラック輸送から海上輸送への切り替えや配送車両の積載効率向上など、荷主として効率的な物流インフラ整備に努めています。

### 高機能婦人用体温計の輸送効率の向上

体温計の個包装箱には、取扱説明書や添付文書など安全に正しくお使いいただくための書類を同梱していますが、それぞれの文書の役割を明確化し重複記載をなくすことなどにより個包装箱のサイズを容積で従来比約37%削減しました。あわせて中箱・外箱についても、パレットへの積み付け効率の向上を考慮した形状に変更することにより、パレットあたりの輸送効率が約33%向上し、輸送時の二酸化炭素排出量削減につながりました。



外箱 3 箱 × 6 段 = 18 箱 / パレット



外箱 4 箱 × 6 段 = 24 箱 / パレット

パレット積み付け効率の向上(高機能婦人用体温計の一例)

### 【Topics】「チャレンジ25キャンペーン」に参加

テルモは、政府が主催する「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、地球温暖化防止に向けた取り組みを推進しています。「チャレンジ25キャンペーン」では、オフィスや家庭などにおいて実践できる二酸化炭素排出量削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案し、その行動の実践を広く国民に呼びかけています。テルモはこの趣旨に賛同し、オフィスや家庭での地球温暖化防止活動を推進しています。



## 資源の有効活用

テルモの事業活動は、地球の限りある資源を活用することで成り立っています。

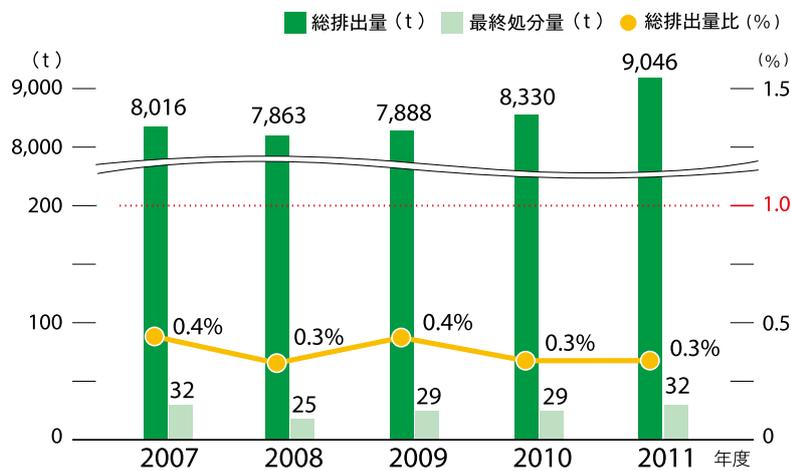
テルモでは、アソシエイト全員参加型の活動で、廃棄物の削減や資材の有効利用、リサイクルの向上など資源の有効利用に取り組んでいます。

### 廃棄物の最終処分量削減に向けて

工場や研究開発センター、オフィスでの事業活動では、様々な廃棄物が発生します。テルモでは、「営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量(埋立量)を廃棄物等総排出量の1%未満にする」というゼロ・エミッションを掲げ、分別廃棄の徹底や廃棄方法・廃棄ルールを工夫しています。2011年度の廃棄物最終処分量は廃棄物等総排出量の0.3%となり、8年連続でゼロ・エミッションを達成しました。

#### ●●●●●●●●●● 廃棄物最終処分量削減目標

営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を、廃棄物等総排出量比1%未満にする  
=ゼロ・エミッションの継続



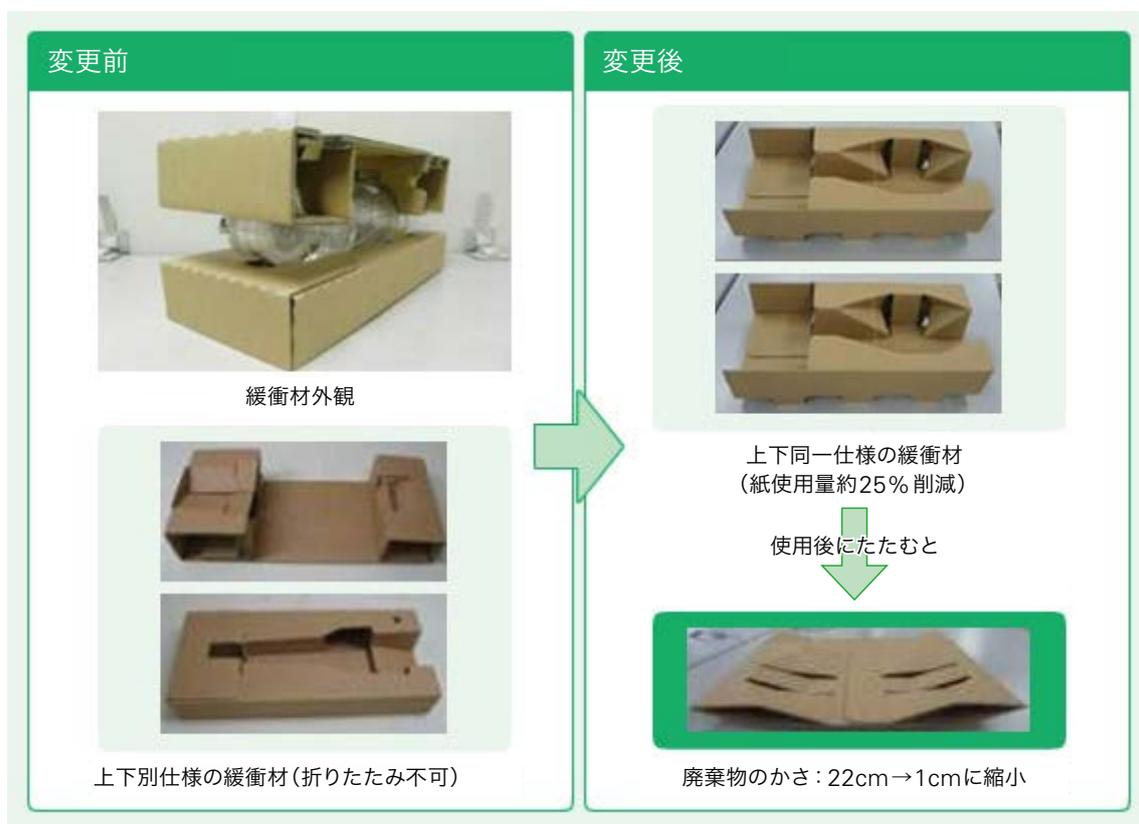
廃棄物最終処分量の排出量推移

## 包装材削減に向けた取り組み

テルモでは、容器包装の機能を損なわずに、資源を有効利用しつつ、お客様の使い勝手を向上させるため、容器包装の小型・軽量化や薄肉化、形状の見直しなど、包装材削減に向けた取り組みを行っています。

### 緩衝材の紙使用量削減・廃棄時のかさを抑制

人工肺の緩衝材には、輸送時の製品保護の目的で強度を保つため、上下別仕様の緩衝材を使用していましたが、形状を工夫することにより、これまでの強度を損なわずに紙の使用量を従来比約25%削減することができました。また、緩衝材の形状を上下同一にし、廃棄時にたたむ仕様に変更することで廃棄時のかさも小さくなり(高さ22cm→1cmに縮小)、お客様の廃棄物削減と廃棄性を向上させることができました。



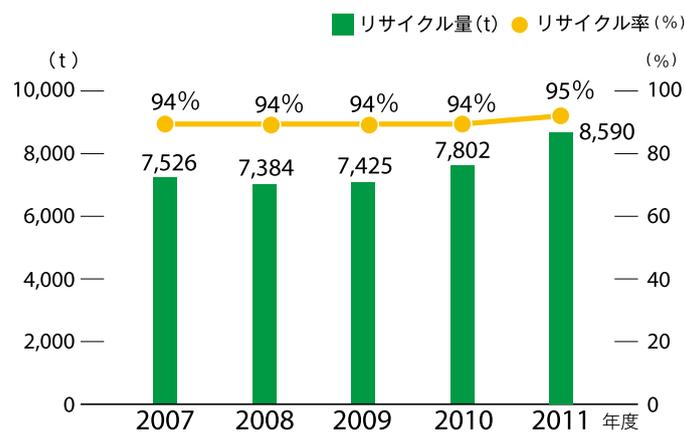
## リサイクルの促進に向けた取り組み

環境専門部会の事業廃棄物部会を通して事業所間で情報を共有し、アソシエイト全員がリサイクルに努めています。製品の安全性の観点から、廃棄物の社内での再生利用(マテリアルリサイクル)は困難ですが、製造工程やオフィスでの事業活動で発生する様々な廃棄物を分別し、リサイクル会社の協力により、床タイルなどの他のプラスチック製品や、RPF(固形燃料)、有機肥料などにリサイクルしています。2011年度のリサイクル率は95%に達しています。

廃棄物等総排出量の内訳(2011年度)



リサイクル量とリサイクル率の推移



## ポリ袋のリサイクル

工場では、ポリ袋廃棄物が多く発生します。

ポリ袋と紙類や金属・その他プラスチック類などが混入しない分別収集の推進と外部再生会社の協力により、再生資源化ルートを確認しました。

2011年度は月あたり約24tのポリ袋廃棄物を再生資源として外部再生会社に提供し、再生ポリ袋として製品化していただきました。

### ポリ袋のリサイクルフロー（工場より外部再生会社へ）



工場内で分別収集したポリ袋は搬送梱包して、外部再生会社に再生資源として提供



外部再生会社で、テルモからの再生資源をもとにポリ袋を成形



製袋や検品などを経て、再生ポリ袋として製品化



製品化された再生ポリ袋は、需要先へ出荷

## 小型充電式電池のリサイクルに対する取り組み

資源有効利用促進法に基づき、継続して小型充電式電池のリサイクルを実施しています。テルモの商品から出た使用済み小型充電式電池は、小型充電式電池のリサイクルを推進している一般社団法人JBRCにより、回収・リサイクルされています。また、商品廃棄の際に分別しやすいように、リサイクルマークを表示するなどの工夫をしています。小型シール鉛蓄電池についても、メンテナンスによる電池交換の際に回収・リサイクルをしています。



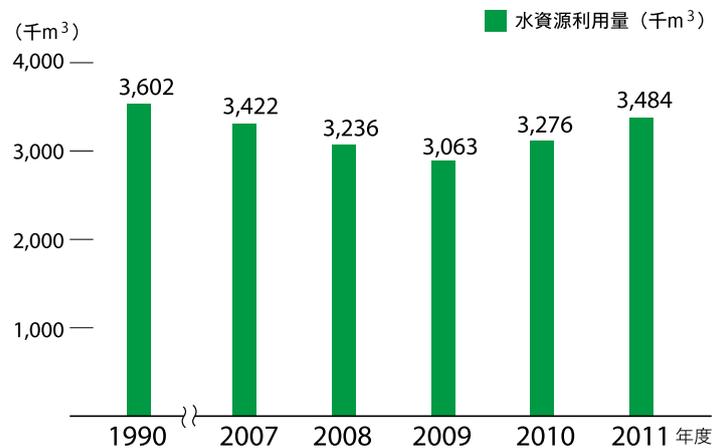
2011年度回収・リサイクル実績(期間:2011年4月~2012年3月)

(単位: kg)

ニカド電池	ニッケル水素電池	リチウムイオン電池	小形シール鉛蓄電池
4,541	406	24	1,313

## 水資源の有効利用

テルモでは、水資源有効利用のために冷却水の循環利用、水資源使用の最適化を行っています。今後も引き続き生産量の増加を見込んでいますが、水資源の有効利用に取り組んでいきます。



水資源利用量の推移

## 化学物質の適正管理

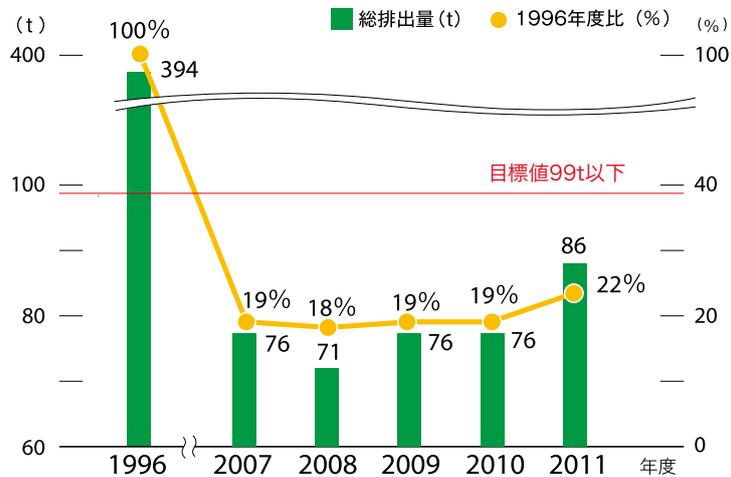
テルモでは、環境基本方針に基づいて自主目標を定め、化学物質の使用・排出・廃棄について把握・管理を行っています。各工場・研究所のメンバーからなる化学物質部会を中心に、化学物質の取扱量・排出量の把握・削減に努めています。PRTR\*1対象物質などの月単位での把握と発生源からの排出量削減に最優先で取り組んでいます。

### 化学物質排出量削減目標

テルモでは、ジクロロメタンの排出量削減のため甲府工場に回収装置を設置し、排出量を年間99t以下にするという自主目標を設定して排出量削減に取り組んでいます。

#### 目標

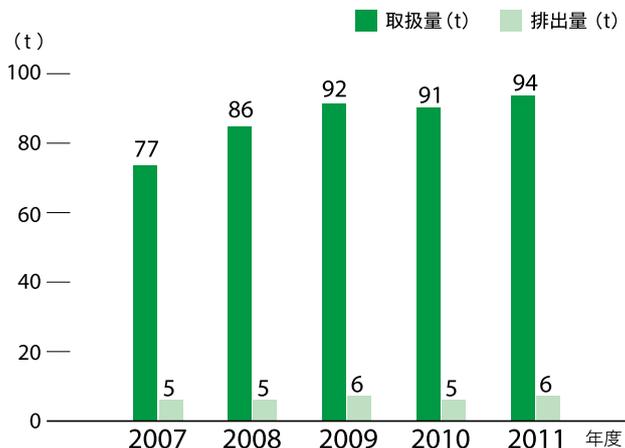
ジクロロメタンの排出量を99t以下



### エチレンオキシド排出量削減に向けた取り組み

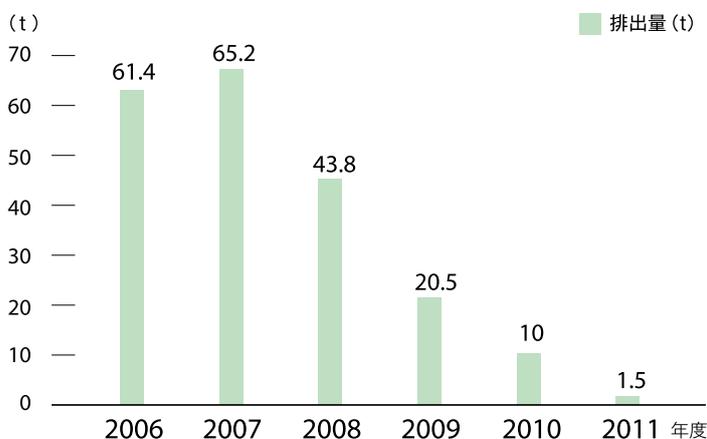
エチレンオキシドは、医療機器の滅菌に広く使用されています。テルモでは、外部環境へのエチレンオキシド排出量削減のため、触媒酸化式排ガス処理装置を愛鷹工場、富士宮工場、湘南センターに、燃焼方式の処理装置を甲府工場に設置済みです。また、エチレンオキシド滅菌の代替も進めています。

2011年度は、愛鷹工場において滅菌作業エリアの作業環境改善を行いました。今後も改善効果を確認しつつ継続的に作業環境濃度の低減に努めます。



### HCFC-141bの代替

モントリオール議定書を背景に、日本国内では2010年からHCFC-141bの生産が禁止となりました。テルモでは、2005年から化学物質部会の中に各工場の担当者が構成されるHCFC連絡会を組織して、各事業所で使用しているHCFC-141bの代替のため、使用工程のリストアップ、代替品の情報共有、各事業所での検討結果の共有を行って、HCFC-141bの代替を進めてきました。2009年末に代替品への変更設定を終了し、購入済みの141b含有資材の在庫消化に入っています。一部使用量の少ない用途で在庫消化が継続するものの、今後141b排出量は徐々に減少し、最終的に0になる予定です。



## PCBの適正な処分に向けて

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、PCB\*を使用したトランス、蛍光灯安定器などはすべて取り外しました。速やかに適正な処分ができるよう、日本環境安全事業株式会社豊田事業所への早期登録も完了しています。

\* PCB: polychlorinated biphenylの略。ポリ塩化ビフェニル。

## PRTR\*1対象物質および自主管理物質

(単位: t)

化学物質名	量	富士宮工場	愛鷹工場	甲府工場	研究開発	合計
エチレンオキシド(EOG)	取扱量	12.5	58.2	22.9	0.1	93.7
	排出量	0.6	2.9	2.1	0.0	5.6
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1・2ジクロロエタン	取扱量	0.0	2.7	0.0	0.0	2.7
	排出量	0.0	2.1	0.0	0.0	2.1
	移動量	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6
HCFC-141b	取扱量	2.1	0.0	0.0	0.0	2.1
	排出量	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
HCFC-225	取扱量	9.8	27.1	20.2	0.0	57.1
	排出量	8.5	19.3	18.8	0.0	46.6
	移動量	0.9	0.8	0.0	0.0	1.7
ジクロロメタン	取扱量	0.2	9.1	168.3	0.0	177.6
	排出量	0.2	4.3	81.1	0.0	85.6
	移動量	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8
トルエン	取扱量	0.8	0.0	11.4	5.1	17.3
	排出量	0.5	0.0	9.6	0.0	10.1
	移動量	0.3	0.0	1.8	2.7	4.8
フタル酸ジ(2-エチルヘキシル) (DEHP)	取扱量	718.0	6.4	148.6	0.0	873.0
	排出量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	移動量	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0
フッ化水素	取扱量	0.0	12.9	0.1	0.0	13.0
	排出量	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1-ブロモプロパン	取扱量	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5
	排出量	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0
	移動量	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
モルホリン	取扱量	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2
	排出量	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ジメチルアセトアミド	取扱量	2.0	0.0	0.0	1.7	3.7
	排出量	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
	移動量	1.6	0.0	0.0	0.3	1.9
ノルマルヘキサン	取扱量	0.0	5.5	0.0	0.0	5.5
	排出量	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5
	移動量	0.0	4.9	0.0	0.0	4.9
テトラヒドロフラン THF	取扱量	7.7	32.0	3.1	0.0	42.8
	排出量	6.4	30.5	3.1	0.0	40.0
	移動量	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3

\*1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)の略。

## グリーン調達・グリーン購入の推進

テルモでは、原材料の環境配慮製品購入などのグリーン調達について、関連部署と連携して法令に適合する仕組みづくりを進めています。また、工場やオフィスでの事務用品、その他の備品の購入にガイドラインを設定し、環境に配慮した商品の購入を進めるグリーン購入を実施しています。

### グリーン調達

各国の製品化学物質法規制だけでなく、医療機器の特性としてのアレルギー対策や内分泌かく乱作用の懸念による調査など、お客様や行政当局からの様々な要請に対処するため、将来を見据えた含有物質の把握・管理体制を構築すべく、関連部署と協力して取り組んでいます。

### 各国化学物質規制 (REACHなど) への対応

テルモでは、急速に厳格化が進む各国化学物質規制に対し、関連部署と連携して将来を見据えた体制の構築に取り組んでいます。

#### 1. 法規制情報の収集

政府公報や業界活動などを通じて得た環境規制情報が環境推進室に集約されます。また、化学物質規制が最も先行している欧州をはじめとする各国の現地法人からは、定期的に情報が提供されます。情報を一元管理することで、化学物質規制の対象物質調査や規制対応に漏れがないよう努めています。

## 2. 設計段階での確認・調達先調査

製品設計の段階で法規制対象物質をあらかじめ設計担当者に提示し、設計段階で環境汚染物質などの使用を極力避けるよう配慮しています。設計担当者への意識付けを行うツールとして「Human×Eco®開発指針」を利用しています。

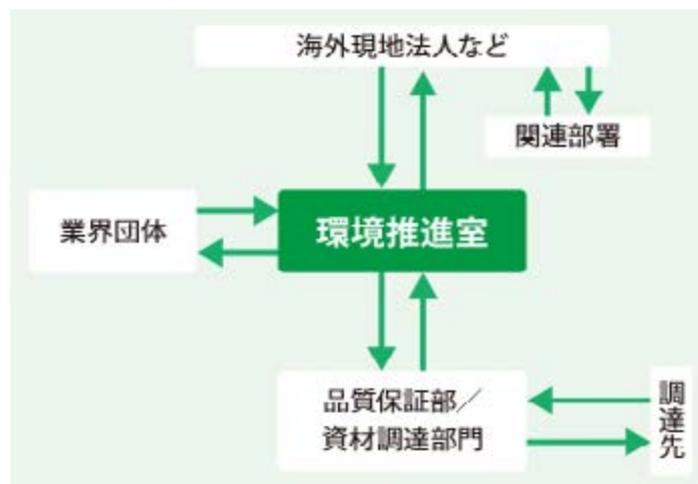
同時に、調達資材についての規制物質の含有調査を品質保証部と資材調達部門が協力して実施しています。調査は製品品質上必要な調査項目を含め、様々な目的での原材料調査を一括して行います。調査の回答が得られると、品質保証部がデータベース化を行い、必要なときに速やかにデータを活用できる状態にしておきます。

Human×Eco®開発指針チェックシート(部分拡大図)

原則		指針	インプット状況 (確認は「○」記入)	選択者 選択有
環境負荷の低減 (環境への負荷を低減します)	A1	環境関連の法令・条約・協定・規則類を遵守する		
	A2	環境汚染となる有毒物質を含有しない		
	A3	環境負荷の低い材料を使用する		
	A4	産業や社会インフラを考慮して設計・包材・製品等を設計する		

## 3. 現地へのフィードバック

現地での法規制に対応するため、環境推進室から現地法人および関連部署に対しフィードバックを行います。



## グリーン購入の実施

工場やオフィスでの事務用品、その他の備品に関するガイドラインを設定した上で、グリーン購入を実施しています。今後もグリーン購入を継続し、環境保全への取り組みを強化していきます。

### 2011年度 グリーン購入実績

(単位 数量：千個、金額：千円)

		全体		環境配慮	
		数量	金額	数量	金額
本社・営業	数量	21		12	57%
	金額	33,768		19,273	57%
工場	数量	34		22	65%
	金額	16,698		12,174	73%

## 環境監査の実施

テルモでは、環境基本方針で定めている通り、法令違反や環境問題の発生を未然に防止するための内部環境監査を、継続して実施しています。

### 2011年度の内部環境監査実施状況

法令違反や環境問題の未然防止、現在から将来における環境リスクを低減させることを目的として、国内工場・湘南センター・本社・営業拠点および海外事業所を含めたテルモグループの内部環境監査を実施しています。

#### ■ 監査項目

1. 環境関連適用法令の遵法性確認
2. 環境リスク項目の管理状況とパフォーマンス確認
  - 環境管理組織の運営状況
  - 廃棄物管理状況と関連リスクの管理状況
  - エネルギー管理と省エネルギーへの取り組みと実績
  - 化学物質の管理状況と関連リスクの管理状況
3. 労働安全衛生に関する事項
  - 作業環境管理状況
  - 安全衛生関連の教育訓練実施状況

#### 内部監査結果

- 環境関連法令の遵守について、重大な不適合はありませんでした。
- 各事業所の環境リスクに対する管理状況については、実態に合った効率的な管理システムが整備され、自主目標の達成に向け確実な取り組みが行われていました。
- 労働安全衛生について対応中の事項は一部ありましたが、重大な不備はありませんでした。



内部監査の様子

## 2011年度外部環境監査結果

### 廃棄物処理委託先の監査

テルモから排出した汚泥やプラスチック類の廃棄物が、最後まで適正に処理されているかを確認するため、チェックリストを作成し、計画的に廃棄物の収集運搬委託先・処理委託先を監査しています。2011年度は37か所の委託先について監査を行いました。



廃棄物委託先監査

## 2011年度外部立入調査結果

2011年度における環境関連の外部（行政当局）立入調査は、経済産業省による省エネルギー法に基づく調査、特定建築物の衛生管理状況に関する調査、水質汚濁防止法および大気汚染防止に基づく調査と工場排水の採水検査が実施されました。いずれも指導事項はありませんでした。



経済産業省立入調査の様子

## 事業活動・物質フロー

エネルギーや原材料などのインプットに対し、生産活動の過程で二酸化炭素や排水、廃棄物などがアウトプットされるとい  
う環境負荷を把握し、それらの数値を指標とすることで、環境負荷の低減に取り組んでいます。



※ 事業活動・物質フローの集計範囲は、テルモ株式会社の国内事業所が対象です。

※ 物流におけるNox排出量は、環境省「環境活動評価プログラム(2002年4月)」の係数を用いて算出しています。

## サイトデータ

テルモは、資源の有効利用とともに環境負荷物質の排出削減のため日々努力しています。

サイトデータでは、2011年度の国内および海外の生産事業所の環境負荷データを報告します。

事業所	所在地	CO <sub>2</sub> 総排出量 (千t)	水使用量 (千m <sup>3</sup> )	廃棄物総排出量 (t)	特別管理廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)
富士宮工場	静岡県 富士宮市	40	1,744	3,329	10	3,305
愛鷹工場	静岡県 富士宮市	17	528	1,414	188	1,248
甲府工場	山梨県 中巨摩郡	49	1,097	3,999	30	3,801
研究開発センター	神奈川県 足柄上郡	6	94	205	53	165
幡ヶ谷本社	東京都 渋谷区	0.1	2	29	1	28
株式会社医器研	埼玉県 狭山市	0.1	1	11	0	5
テルモ・クリニカル サプライ株式会社	岐阜県 各務原市	1	6	36	1	25
テルモメディカル社 TCVS社	アメリカ メリーランド州	18	54	491	97	124
TCVS社	アメリカ ミシガン州	2	16	735	15	349
TCVS社	アメリカ マサチューセッツ州	1	2	165	0	102
マイクロベンション社	アメリカ カリフォルニア州	1	-	22	-	-
テルモBCT社	アメリカ コロラド州	17	60	1,558	11	1,274
テルモヨーロッパ社	ベルギー ルーバン	16	56	1,040	181	462
テルモヨーロッパ社 UK工場	イギリス リバプール	0.03	0.5	61	0	17
バスケテック社	イギリス グラスゴー	2	15	126	0	30
テルモBCT社	イギリス ラーン	5	64	146	1	107
泰尔茂医療産品 (杭州)有限公司	中国 浙江省	27	475	320	17	284
長春泰尔茂医用器具 有限公司	中国 吉林省	4	43	256	0	238
テルモフィリピンズ社	フィリピン ラグナ州	19	133	805	14	784
テルモベトナム社	インド ケララ州	5	28	637	0	628
テルモベトナム社	ベトナム ビンフック省	3	88	98	30	67

※TCVS社：テルモカーディオバスキュラーシステムズ社の略称

※廃棄物密度は、一般/産業廃棄物を0.2t/m<sup>3</sup>、有害廃棄物を1.0t/m<sup>3</sup>として算出しています。

## 取り組みの歴史

### 環境への取り組みの歴史

1971(昭和46)年	愛鷹工場に環境管理室を設置
1972(昭和47)年	愛鷹工場で沈降式からキレート吸着式水銀排水処理施設に変更
1975(昭和50)年	富士宮工場で総合排水処理施設を設置
1976(昭和51)年	注射針ハブ(針の根元部分)の、酸による表面処理を廃止。酸廃液が生じないプラズマ処理に変更 富士宮工場・愛鷹工場が富士宮市と公害防止協定を締結
1979(昭和54)年	富士宮工場でボイラー燃料を重油から硫黄分の少ないLPGへ変更
1980(昭和55)年	シリンジ(注射筒)のガスケットを、ゴムから熱可塑性エラストマーへ変更し、 焼却時の硫黄酸化物発生を防止 愛鷹工場に総合排水処理施設設置
1981(昭和56)年	輸液剤容器(テルパック)を脱塩ビ化。 焼却時に有害ガスを発生しないEVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)に変更
1982(昭和57)年	規制に先立ちトリクロロエチレンの使用を全面廃止
1983(昭和58)年	甲府工場で滅菌方法に排ガスの発生しないガンマ線滅菌を採用 水銀を使用しない電子体温計を販売開始
1984(昭和59)年	脱水銀のため、約70年間製造してきた水銀体温計の製造を終了
1989(平成元年)	ガラス真空採血管を、焼却処理しやすいポリエステル素材のプラスチック真空採血管に切り替え
1991(平成3)年	焼却時に有害ガスを発生しないポリブタジエンのチューブを使用した脱塩ビ輸液セットを販売開始
1992(平成4)年	医療現場の環境を考慮し、脱水銀化の一環として病院用電子血圧計を販売開始
1994(平成6)年	焼却時に硫黄酸化物を発生しない熱可塑性エラストマー素材バルーンカテーテルを販売開始
1996(平成8)年	甲府工場製造工程での、オゾン層破壊物質の特定フロンを使用廃止(順次他工場も実施) 新型プラスチック瓶針輸液セットの生産を開始。脱金属針により、病院内での廃棄物の取扱いが容易に
1997(平成9)年	本社に環境推進室を設置 甲府工場でコージェネレーション(電熱併給)発電が運転開始し、工場使用電力の60%を賅う 富士宮・愛鷹工場でLPGから二酸化炭素発生量の少ない都市ガスに変更 重油の使用全廃(全生産事業所)
1998(平成10)年	シリンジ(注射筒)の小型・軽量化を実施。シリンジ廃棄重量を約25%削減 社内で使用するコピー用紙の再生紙への切り替え開始 富士宮工場にエチレンオキッド排ガス処理のため、触媒酸化式排ガス処理装置を導入
1999(平成11)年	テルモ環境基本方針を制定 富士宮工場でコージェネレーション発電が運転開始 カタログ、仕様変更案内など、再生紙への切り替え開始 在宅で使用する腹膜透析液容器の脱塩ビ化を開始、焼却時に有害ガスを発生しないポリプロピレンに変更、廃棄重量を40%削減
2000(平成12)年	環境委員会が発足 愛鷹工場でコージェネレーション発電が運転開始 容器包装識別表示、材質表示を開始 内部環境監査を開始 営業用ディーゼル車を全廃 2000年度より環境報告書を発行(以後、毎年発行)

2001(平成13)年	甲府工場と愛鷹工場の焼却炉運転停止 PCB含有機器の使用を廃止し、すべてを保管 非塩ビ製素材の小児用輸液セットを販売開始 富士山一斉清掃にアソシエイトと家族約80名が参加
2002(平成14)年	甲府工場でベンゼン・クロロホルムを全廃 甲府工場と愛鷹工場の焼却炉を廃止・撤去 甲府地区と富士宮地区の共同参加(約130名)による富士山一斉清掃 甲府工場に観測井戸設置(地下水質監視) 可塑剤DEHPの代替としてTOTMを使用した輸液セットを販売開始
2003(平成15)年	愛鷹工場と本社でゼロ・エミッション達成 LPGから都市ガスに変更(甲府工場)。国内主要事業所すべてが燃料転換完了 海外事業所の現地調査を実施 テルモ富士山森づくりを開始
2004(平成16)年	「高カロリー輸液用総合ビタミン・糖・アミノ酸・電解質液」で平成16年(第1回)エコプロダクツ大賞「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」受賞 甲府工場と富士宮工場でゼロ・エミッション達成
2006(平成18)年	湘南センターでゼロ・エミッション達成 RoHS指令適合の電子血圧計を発売 甲府工場にターボ冷凍機を導入 愛鷹工場にエチレンオキsid排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を導入 「チーム・マイナス6%」に参加
2008(平成20)年	富士宮工場が「エネルギー管理優良工場 関東経済産業局長賞」を受賞 愛鷹工場にエチレンオキsid排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設 廃プラスチック油化処理テストプラントを設置
2009(平成21)年	「Human×Eco®開発指針」を導入 海外生産事業所の環境監査を開始 富士宮工場が「平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者」に認定 富士宮工場にエチレンオキsid排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設
2010(平成22)年	富士宮工場に太陽光発電システムを導入 甲府工場が「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞 最優秀賞」を受賞 愛鷹工場にエチレンオキsid排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設
2011(平成23)年	国内電力大口需要事業所に電力需要見える化管理システムを導入 静岡県・森林所有者・テルモの3者で「しずおか未来の森サポーター」協定を締結 テルモヨーロッパ社ハースロード工場でISO14001/OHSAS18001認証取得

## 社会・環境活動の目標と実績

マネジメント・社会・環境パフォーマンスの取り組み項目を充実させながら、その実績と自己評価を掲載しています。今後も継続して社会貢献活動や環境保全活動を推進し、「良き企業市民」として適正な情報を開示していきます。

評価 ○：目標達成 △：目標を一部未達成 ×：目標を未達成

### マネジメントパフォーマンス

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2011年度実績	2011年度 評価	2012年度の 取り組み
内部統制への取り組み	●内部統制システムの継続的な見直しと運用	●内部統制システムの整備・運用	○	●内部統制システムの整備・運用
コンプライアンスの推進	●コンプライアンス研修の継続	●コンプライアンス研修の継続	○	●コンプライアンス研修の継続

### 社会パフォーマンス

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2011年度実績	2011年度 評価	2012年度の取り組み
アクセス性の高いコールセンター	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持	●受信率95.6%、着信応答時間2.2秒	○ 受信率96.2% 着信応答時間2.2秒	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持
障害者雇用の推進	●障害者雇用率1.8%の維持	●2012年3月末現在、障害者雇用率1.86%	○	●前年度障害者雇用率からのアップ
労働安全衛生	●死亡・重大労災をゼロに、休業労災件数を前年度からダウン	●2011年度死亡・重大労災ゼロ(前年度0件)、その他休業労災件数2(前年度2件) 度数率 <sup>※1</sup> : 0.97317 強度率 <sup>※2</sup> : 0.00238	△	●死亡・重大労災ゼロを維持、休業労災件数を前年度からダウン
女性社員の育成	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を実施	●女性管理職比率3.4%(2012年3月末現在)	○	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を推進
公正な採用の推進	●人種・国籍・性別・宗教・身体などに関係なく、能力をベースとした採用を実施	●採用担当者の教育、マニュアルの整備	○	●公正な採用及びそのための採用担当者の教育を継続

※1 度数率：労災における死傷者数÷延べ労働時間×1,000,000

※2 強度率：延べ労働損失日数÷延べ労働時間×1,000

## 環境パフォーマンス

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2011年度実績	2011年度 評価	2012年度の取り組み
事業が環境へ与える影響の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発・生産・営業活動の中で環境に与える影響を定量的に把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境影響評価の継続実施</li> <li>生産事業所の敷地境界での臭気測定実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境影響評価の継続</li> </ul>
環境に配慮した製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療現場での脱水銀</li> <li>各国規制対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関向け電子血圧計の販売促進</li> <li>Human×Eco®開発指針の運用推進</li> <li>包装材削減の取り組み</li> <li>使用済み小型充電式電池の回収リサイクル</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>RoHS指令適合製品の開発と保証システム構築継続</li> <li>Human×Eco®開発指針の運用促進</li> <li>環境配慮製品の開発推進</li> </ul>
環境汚染の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジクロロメタンの排出量99t以下を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジクロロメタン排出量は86t</li> <li>エチレンオキッド敷地境界濃度自主測定継続</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジクロロメタンの排出量99t以下を継続</li> <li>エチレンオキッド敷地境界濃度自主測定継続</li> </ul>
エネルギーや資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比50%削減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節電の推進</li> <li>電力の見える化への対応</li> <li>二酸化炭素排出原単位を1990年度比46%削減</li> <li>「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、社内エコキャンペーンの実施</li> <li>エコドライブの推進</li> <li>オフィスでの省エネルギー活動の推進</li> <li>廃プラスチック油化の実験を継続実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>節電の推進</li> <li>電力の見える化への対応</li> <li>「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、節電を目的とした社内エコキャンペーンの実施</li> <li>エコドライブの推奨</li> <li>オフィスでの省エネルギー活動の推進継続</li> <li>2013年度以降温暖化目標を策定</li> </ul>
廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を廃棄物等総排出量比1%未満にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を総廃棄物量比1%未満を継続</li> <li>グループを含めた電子マニフェストの利用を促進</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量の廃棄物等総排出量比1%未満を継続</li> <li>グループを含めた電子マニフェストの利用を促進</li> </ul>
環境マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>テルモグループ全体においてテルモ環境マネジメントシステムに適合維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内事業所、国内グループ会社がテルモ環境マネジメントシステムを維持継続</li> <li>国内事業所、国内グループ会社の環境監査を実施</li> <li>テルモメディカル社・TCVS社の環境監査実施</li> <li>テルモヨーロッパ社ハースロード工場ISO14001/OHSAS18001認証取得</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内事業所、国内グループ会社がテルモ環境マネジメントシステムを維持継続</li> <li>国内事業所、国内グループ会社の環境監査を継続実施</li> <li>海外工場への環境監査実施</li> </ul>

取り組み項目	自主目標 (中期目標)	2011年度実績	2011年度 評価	2012年度の取り組み
ボランティア活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テルモ富士山森づくりの実施 (郷土樹種による自然林再生)</li> <li>静岡県・森林所有者・テルモの3者 で「しずおか未来の森サポーター」 協定を締結</li> <li>多摩川クリーン作戦(東京)への 参加をはじめとするボランティア 支援活動</li> <li>エコキャップ運動に参加</li> <li>事業所周辺の清掃活動実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>テルモ富士山森づくりをはじめとするボラ ンティア支援活動の 継続</li> </ul>
環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・環境報告書の発行</li> <li>環境月間の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011年版社会・環境報告書の発行</li> <li>環境月間の取り組み</li> <li>社内ホームページで、環境月間特集 記事を連載</li> <li>社員参加型エコ活動に3,372名 参加</li> <li>社員対象環境教育の実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年版社会・ 環境報告書の発行</li> <li>環境月間の取り組み</li> <li>社員参加型エコ活動 の継続</li> <li>社員対象環境教育の 継続</li> </ul>
環境法令の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全に関する 法律、条令、協定 等の遵守、海外で の法令遵守の 確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>REACH等海外化学物質規制への 対応</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>REACH等海外化学 物質規制への対応 継続</li> <li>改正水質汚濁防止法 への対応</li> </ul>

## 5年間財務サマリー(連結)

テルモ株式会社及びその連結子会社  
3月31日に終了する会計年度

会計年度:	単位: 百万円				
	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)	2009年度 (2010年3月期)	2010年度 (2011年3月期)	2011年度 (2012年3月期)
売上高	¥ 306,382	¥ 302,747	¥ 316,009	¥ 328,214	¥ 386,686
営業利益	66,942	54,040	63,282	62,607	63,049
税金等調整前当期純利益	65,346	52,353	63,406	51,560	49,650
当期純利益	43,382	36,878	40,722	32,339	24,167
営業活動によるキャッシュ・フロー	69,683	31,616	67,352	46,829	56,200
投資活動によるキャッシュ・フロー	(28,070)	(23,988)	(25,273)	(18,989)	(247,182)
フリーキャッシュ・フロー	41,613	7,628	42,079	27,840	(190,982)
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,082	(34,821)	(11,488)	(26,417)	182,982
研究開発費	15,754	17,158	17,528	20,356	24,322
設備投資支出額	15,954	17,837	18,440	21,562	21,132
減価償却費(注1)	17,812	20,382	19,909	20,392	28,835

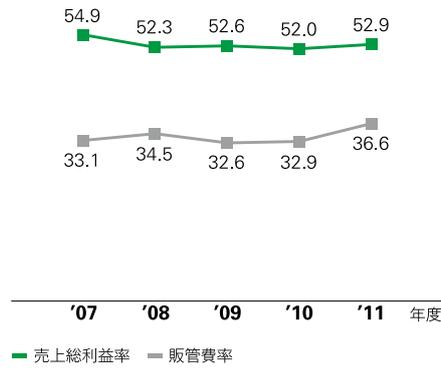
1株当たり指標(注2):	単位: 円				
	当期純利益	¥ 220.30	¥ 191.86	¥ 214.44	¥ 170.30
配当金	32.00	32.00	32.00	34.00	39.00
純資産	1,489.10	1,464.27	1,668.93	1,765.32	1,855.25

会計年度末:	単位: 百万円				
	流動資産	¥ 218,072	¥ 193,659	¥ 230,432	¥ 236,511
流動負債(注3)	114,457	93,701	99,732	78,846	157,998
運転資金	103,615	99,958	130,700	157,665	98,870
総資産(注3)	410,919	379,065	425,508	420,038	692,520
純資産	288,868	278,167	317,140	335,457	352,537
資本金	38,716	38,716	38,716	38,716	38,716

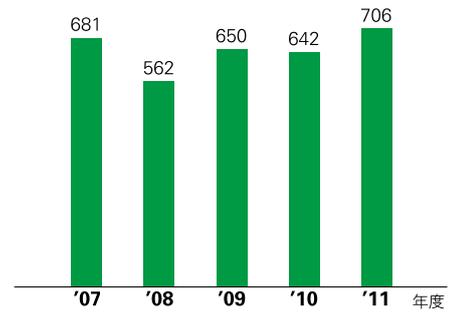
経営指標:	単位: 百万円				
	ROE	15.0%	13.0%	13.7%	9.9%
ROA	11.2%	9.3%	10.1%	7.6%	4.3%
自己資本比率	70.3%	73.4%	74.5%	79.8%	50.9%
流通株式数(千株)	193,929	189,898	189,895	189,881	189,879
期末従業員数(人)	12,322	13,439	13,740	14,761	18,112

- (注) 1. 減価償却費には、のれん償却費を含んでいます。  
 2. 1株当たり当期純利益に対しては、2002年4月1日より実施されている企業会計基準が適用されています。  
 3. 2010年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 2008年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 2008年3月31日)を適用しています。  
 4. 連結子会社のうち12月決算であったアジア地域の5社について、会計期間の統一を実施しました。そのため2010年度におきましては、2010年1月1日から2011年3月31日までの15か月決算となり、売上高で1,923百万円、営業利益970百万円、経常利益916百万円、当期純利益685百万円それぞれ増加しています。

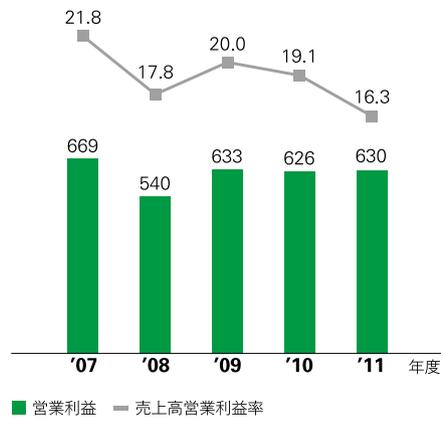
売上総利益率／販管費率(%)



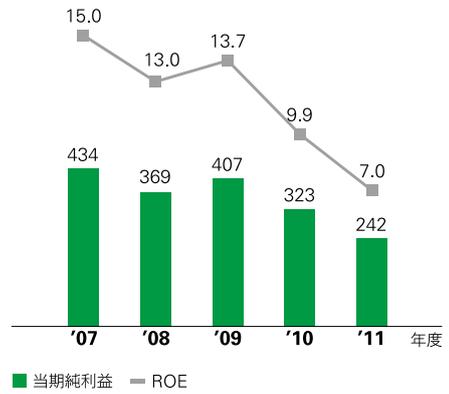
のれん償却前営業利益 (億円)



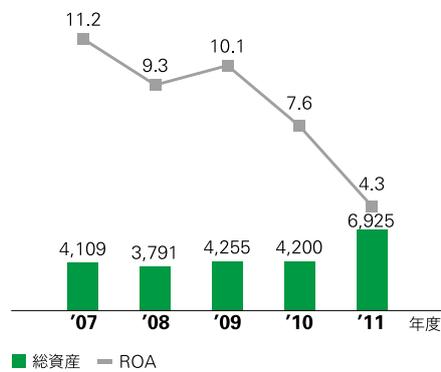
営業利益(億円)／売上高営業利益率(%)



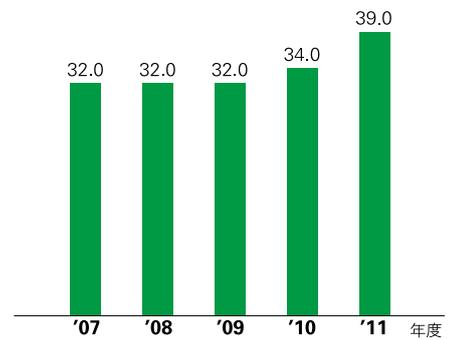
当期純利益(億円)／ROE(%)



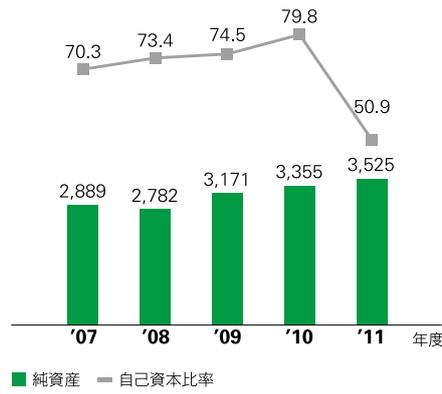
総資産(億円)／ROA(%)



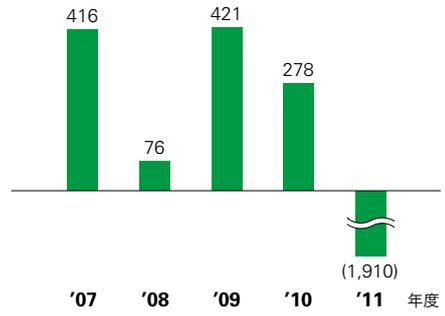
1株当たり配当金(円)



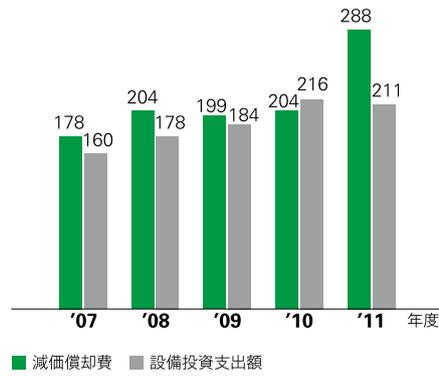
純資産(億円)／自己資本比率(%)



フリーキャッシュ・フロー(億円)



減価償却費／設備投資支出額(億円)



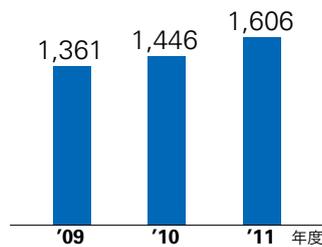
## 事業別概況(2011年度)

### 心臓血管領域事業

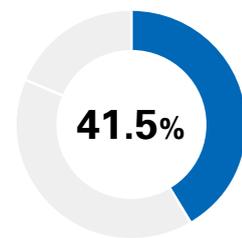
国内では、薬剤溶出型冠動脈ステント「Nobori」(ノボリ)の売上が引き続き好調に推移するとともに、血管内超音波診断カテーテル「ViewIT」(ビューイット)も好調に売上を伸ばしました。海外でも「Nobori」(ノボリ)は欧州、アジア、中南米地域で順調に売上を伸ばしたほか、米州においてTRI(手首の血管からカテーテルを挿入し心臓の血管を治療する方法)の普及拡大に伴い、カテーテル商品群が順調に売上を伸ばしました。

その結果、売上高は前年度比11.1%増、1,606億円となりました。

売上高  
(億円)



売上高構成比率



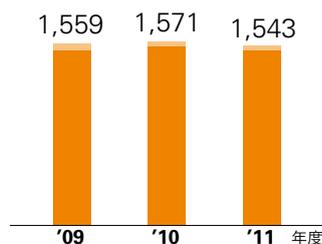
### ホスピタル事業

国内では、震災の影響により一時的に売上が減少していた輸液剤をはじめとする一部の商品が、着実に回復傾向を示すとともに、慢性期市場向け商品である半固形栄養食品やドラッグ&デバイス(D&D)の事業における受託ビジネスも引き続き好調に推移しましたが、前年度比では減収となりました。

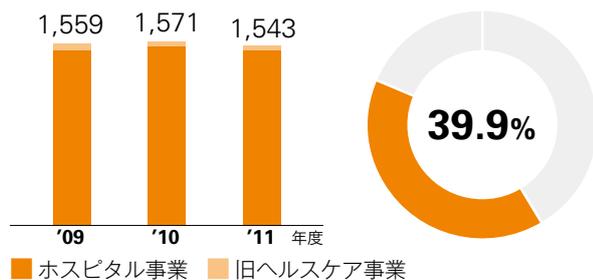
海外では、引き続きアジア、中南米地域が堅調に推移し、現地通貨ベースでは売上を伸ばしたものの、為替の影響を大きく受けました。

その結果、売上高は前年度比1.9%減、1,543億円となりました。

売上高  
(億円)



売上高構成比率



(注)2012年4月、ヘルスケア事業をホスピタル事業へ統合しました。参考値として、過年度のヘルスケア事業の実績を加え、記載しています。

## 血液システム事業

国内では、上期に震災の影響を受けた血液バッグの売上が復調し、前年度比で増収になりました。

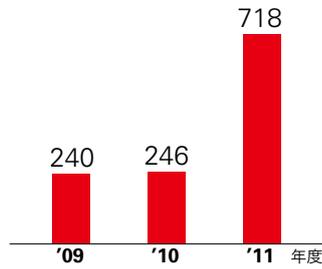
海外では、欧州で血液自動製剤システム「TACSI」(タクシー)が好調に売上を伸ばし、事業全体を押し上げました。

なお、2011年4月に買収したカリディアンBCT社(現・テルモBCT社)については、アフレスシス治療商品群が好調に推移し、成長を牽引しました。

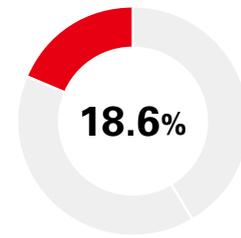
その結果、売上高は前年度比192.5%増、718億円となりました。

(注)各事業の2010年度の数值には、各セグメント間の取引及び会計期間の統一による影響は含めておりません。

売上高  
(億円)



売上高構成比率

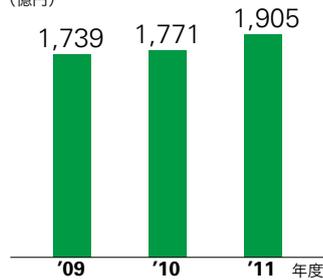


## 地域別営業概況(2011年度)

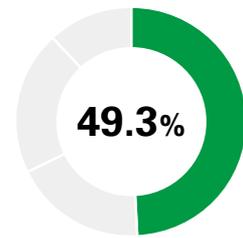
### 日本

薬剤溶出型ステントのほか、プレフィルドシリンジ(薬剤が予め充填された注射器)や血液バッグなどが大きく牽引しました。その結果、売上高は前年度比7.5%増の1,905億円となりました。

売上高  
(億円)



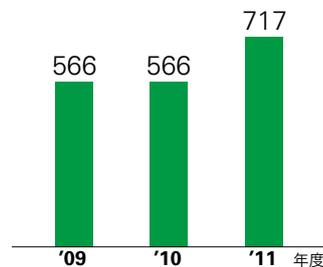
売上高構成比率



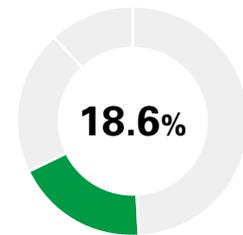
### 欧州

薬剤溶出型ステントをはじめ、カテーテル商品群の売上が拡大しました。血液システム事業では、買収したカリディアンBCT社の売上が加わったほか、血液自動製剤システムが売上を伸ばし、現地通貨ベースでは33.0%の伸長となりました。しかし、為替の影響もあり、売上高は前年度比26.7%増の717億円となりました。

売上高  
(億円)



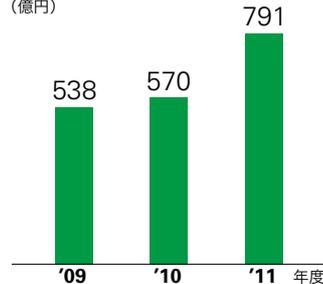
売上高構成比率



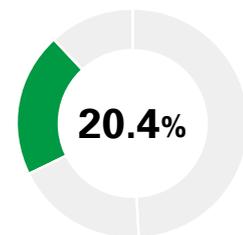
### 米州

TRI(手首の血管からカテーテルを挿入し心臓の血管を治療する方法)の普及を背景に、カテーテル商品群が売上を伸ばしたほか、血液システム事業では、カリディアンBCT社の売上も加わり、現地通貨ベースで50.5%の伸長となりました。しかし、為替の影響を大きく受けた結果、売上高は前年度比38.8%増の791億円となりました。

売上高  
(億円)



売上高構成比率

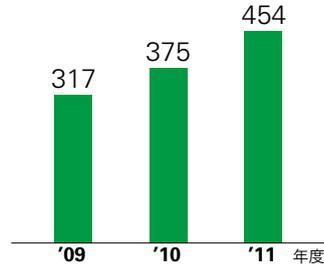


## アジア他

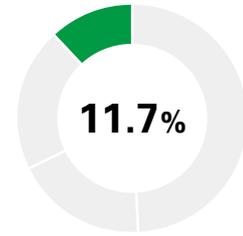
中国をはじめ各国でカテーテル商品群の売上が継続して伸びました。血液システム事業では、カリディアンBCT社の売上が加わったほか、血液バッグの売上が好調に推移し、現地通貨ベースで28.2%の伸長となりました。しかし、為替の影響もあり、売上高は前年度比21.1%増の454億円となりました。

(注)各セグメント間の取引及び配賦不能額については含めておりません。

売上高  
(億円)



売上高構成比率



## 連結貸借対照表

テルモ株式会社及び子会社  
2011年度及び2010年度

資産	百万円	
	2011年度 (2012年3月期)	2010年度 (2011年3月期)
<b>流動資産：</b>		
現金及び預金	¥ 78,767	¥ 83,794
売上債権		
受取手形	1,089	943
売掛金	90,711	75,538
	91,800	76,481
貸倒引当金	(1,240)	(726)
売上債権計	90,560	75,755
たな卸資産	69,281	57,674
短期繰延税金資産	9,708	7,798
デリバティブ債権	9	6,084
その他の流動資産	8,543	5,406
流動資産合計	256,868	236,511
<b>有形固定資産：</b>		
土地	21,298	20,227
建物及び構築物	129,841	120,127
機械装置及び運搬具、 その他の有形固定資産	215,720	189,203
リース資産	2,490	1,644
建設仮勘定	15,244	10,443
	384,593	341,644
減価償却累計額	(252,838)	(228,585)
有形固定資産合計	131,755	113,059
<b>投資その他の資産：</b>		
投資有価証券 (非連結子会社及び関連会社 に対する投資を含む)	20,387	28,895
のれん	138,809	20,191
顧客関連資産	83,759	-
長期繰延税金資産	6,997	8,137
その他の資産	53,945	13,245
投資その他の資産合計	303,897	70,468
<b>資産合計</b>	<b>¥ 692,520</b>	<b>¥ 420,038</b>

負債及び純資産	百万円	
	2011年度 (2012年3月期)	2010年度 (2011年3月期)
<b>流動負債：</b>		
短期借入金	¥ 60,000	¥ -
仕入債務		
支払手形	1,700	1,757
買掛金	32,221	28,955
仕入債務計	33,921	30,712
短期リース債務	423	295
未払法人税等	11,840	6,298
未払費用	20,665	17,590
短期資産除去債務	840	560
その他の流動負債	30,309	23,391
流動負債合計	157,998	78,846
<b>固定負債：</b>		
社債	80,000	-
長期借入金	50,000	-
長期リース債務	1,000	636
退職給付引当金	1,538	1,083
役員退職慰労引当金	202	586
長期資産除去債務	154	992
長期繰延税金負債	44,737	378
その他の固定負債	4,354	2,060
固定負債合計	181,985	5,735
負債合計	339,983	84,581
<b>純資産：</b>		
資本金		
授權株式数 840,000,000株：		
発行済株式数 189,880,260株	38,716	38,716
資本剰余金	52,104	59,031
利益剰余金	290,529	342,966
自己株式	(4)	(76,880)
株主資本合計	381,345	363,833
その他有価証券評価差額金	(52)	(1,920)
繰延ヘッジ損益	2	3,612
為替換算調整勘定	(29,023)	(30,322)
その他の包括利益累計額合計	(29,073)	(28,630)
少数株主持分	265	254
純資産合計	352,537	335,457
<b>負債純資産合計</b>	<b>¥692,520</b>	<b>¥420,038</b>

# 連結損益計算書

テルモ株式会社及び子会社  
2011年度及び2010年度

	百万円	
	2011年度 (2012年3月期)	2010年度 (2011年3月期)
<b>売上高</b> .....	<b>¥386,686</b>	¥328,214
<b>売上原価</b> .....	<b>182,047</b>	157,416
売上総利益.....	<b>204,639</b>	170,798
<b>販売費及び一般管理費</b> .....	<b>141,590</b>	108,191
営業利益.....	<b>63,049</b>	62,607
<b>その他収益(費用)</b>		
受取利息及び受取配当金.....	<b>684</b>	728
受取ロイヤリティ.....	<b>149</b>	142
持分法による投資利益.....	<b>57</b>	81
固定資産売却益.....	<b>224</b>	10
貸倒引当金戻入額.....	<b>-</b>	1
災害損失戻入益.....	<b>156</b>	-
退職給付信託設定益.....	<b>-</b>	494
補助金収入.....	<b>295</b>	-
支払利息.....	<b>(738)</b>	(54)
為替差損.....	<b>(990)</b>	(4,428)
たな卸資産処分損.....	<b>(1,729)</b>	(654)
減損損失.....	<b>(221)</b>	-
固定資産処分損.....	<b>(240)</b>	(2,257)
投資有価証券売却損.....	<b>(1,562)</b>	-
投資有価証券評価損.....	<b>(7,754)</b>	(20)
ゴルフ会員権売却損.....	<b>(5)</b>	-
災害による損失.....	<b>-</b>	(555)
役員退職慰労金.....	<b>-</b>	(16)
和解金.....	<b>-</b>	(3,001)
環境対策費.....	<b>(407)</b>	-
その他(純額).....	<b>(1,318)</b>	(1,518)
	<b>(13,399)</b>	(11,047)
税金等調整前当期純利益.....	<b>49,650</b>	51,560
<b>法人税等:</b>		
法人税、住民税及び事業税.....	<b>24,929</b>	18,992
法人税等調整額.....	<b>496</b>	165
	<b>25,425</b>	19,157
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b> .....	<b>24,225</b>	32,403
<b>少数株主損益</b> .....	<b>58</b>	64
当期純利益.....	<b>¥ 24,167</b>	¥ 32,339

	円	
<b>1株当たり金額:</b>		
1株当たり当期純利益.....	<b>¥ 127.28</b>	¥ 170.30
1株当たり配当金.....	<b>39.00</b>	34.00

## 報告方針

本報告書は、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」の実現に向けた事業活動をステークホルダーの皆様に分かりやすく報告し、社会とのコミュニケーションを促進することを目的に作成しました。

特集では、企業理念の実現に向けたテルモの姿勢として、患者さんに負担の少ない脳動脈瘤のカテーテル治療への取り組みや、がん患者さんを支える輸血医療への取り組み、また貴重なワクチンの効果を高める投与システムの開発などについて紹介しています。また、今年度より新たに財務情報を加えました。

### 対象範囲

可能な限り国内外の連結決算対象のテルモグループを報告対象としましたが、項目により、報告対象が異なる場合があります。

### 対象期間

2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)

活動には、一部直近の内容も含まれます。

### 発行時期

今回発行：2012年8月

前回発行：2011年10月

次回発行：2013年8月予定

### 参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

### 報告書アーカイブ方法

過去の報告書は年度ごとにPDF形式にまとめ、ウェブサイトを通じて報告しています。